

大樽遺跡

発掘調査報告書

1999

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

おお たる
大 樽 遺 跡

発掘調査報告書

平成11年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



序

本書は、財団法人山形県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施した大樽遺跡の調査成果をまとめたものです。

大樽遺跡は山形県の南部に位置する米沢市に所在します。米沢市は、東部に奥羽山脈、南部に吾妻山地の雄大な山々を臨み、西部には玉庭丘陵が広がる自然豊かな土地です。過去に伊達氏や上杉氏といった戦国武将の城下町で、現在も周辺地域の中核的な都市として機能しています。

この度、一般県道綱木西米沢停車場線道路改良工事に伴い、工事に先立って大樽遺跡の発掘調査を実施しました。

調査では、縄文時代早期から後期にかけての遺構と遺物、および中世の堀跡の一部や井戸跡などが発見されました。当地の歴史を知る上で貴重な資料を得ることができました。

埋蔵文化財は、祖先が長い歴史の中で創造し、育んできた貴重な国民的財産といえます。この祖先から伝えられた文化財を大切に保護するとともに、祖先の足跡を学び、子孫へと伝えていくことが、私たちの重要な責務と考えます。その意味で、本書が文化財保護活動の啓発・普及、学術研究、教育活動などの一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。

平成11年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場清耕

例 言

- 1 本書は一般県道網木西米沢停車場線道路改良工事に係わる「大樽遺跡」の発掘調査報告書である。
- 2 調査は山形県土木部の委託により、財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺 跡 名	大樽遺跡(DYZOT)	県遺跡番号	1208
所 在 地	山形県米沢市館山四丁目(通称四ノ坂)		
調 査 主 体	財団法人山形県埋蔵文化財センター		
受 託 期 間	平成10年4月1日～平成11年3月31日		
調 査 期 間	平成10年9月7日～平成10年11月13日		
調 査 担 当 者	調査第二課長	野尻 侃	
	主任調査研究員	尾形 典典	
	調査研究員	黒坂 雅人	
	調査員	國井 修	
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、山形県土木部米沢建設事務所道路計画課、東南置賜教育事務所、米沢市教育委員会など関係機関の協力を得た。また調査にあたっては手塚孝・月山隆弘(米沢市教育委員会文化課)の両氏からご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げます。
- 5 本書の作成・執筆は、主に國井修が担当し、黒坂雅人がこれを補佐した。編集は、須賀井新人、尾形典典、長瀬えみ子が担当し、全体については野尻 侃が監修した。
- 6 委託業務は下記の通りである。

遺物実測(打製石器)	株式会社シン技術コンサル
------------	--------------
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は次の通りである。

SK…土坑・墓塚	SD…溝跡・堀跡	SE…井戸跡	SX…性格不明遺構
SM…集石遺構	SP…不明ピット	EU…埋設土器	
RP…登録土器	RQ…登録石器		
P…土器	S…石		

2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書の番号として踏襲した。

3 報告書執筆基準は下記の通りである。

- (1) 遺跡概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方位は真北を示している。
- (2) グリッドの南北軸は、N-28° -Eを測る。
- (3) 遺構実測図は1/20～1/100他の縮図で採録し、各々スケールを付した。なお実測図中の●は土器の出土地点を、▲は石器の出土地点を表す。
- (4) 遺物実測図・拓影図は、1/2、1/3、1/4で採録し、各々スケールを付した。なお実測図中のスクリーントーンは、土器の場合は炭化物の付着を、礫石器の場合は磨面を表す。
- (5) 遺物観察表中の計測値欄()内の数値は図上復元による推定値、または残存値を示す。出土地点欄の層位では「F」は遺構覆土内出土、「Y」は遺構底面出土を各示し、ローマ数字「I～IV」等は遺構を覆う土層(基本層序)を表している。
- (6) 遺物図版については、原則的に1/2、1/3、1/4、1/6他の縮尺で採録している。
- (7) 遺物番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物図版ともに共通したものである。遺構挿入図中に図示している遺物も同様である。また、本文中では、()で示している。
- (8) 遺構覆土の色調の記載については、1987年度農林水産省農林水産技術会議事務局監修の「新版標準土色帳」に拠った。

目次

I 調査の経緯	
1 調査に至る経過	1
2 調査の方法と経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	6
2 歴史的環境	6
III 遺跡の概観	
1 遺跡の層序	8
2 遺構の分布	8
3 遺物の分布	8
IV 検出された遺構	
1 土坑	10
3 性格不明遺構	11
4 集石	12
5 埋設土器	12
6 墓塚	12
7 井戸跡	12
8 堀跡	12
IV 出土した遺物	
1 縄文土器	25
2 土偶・土製品	29
3 その他の土器	29
4 打製石器	46
5 磨製石器・礫石器	46
6 中世以降の石製品	65
V まとめ	67
参考文献	69
報告書抄録	70

表

表1	調査工程表	5
表2	遺構観察表(1)	17
表3	遺構観察表(2)	18
表4	遺構観察表(3)	19
表5	遺構観察表(4)	20
表6	遺構観察表(5)	21
表7	遺構観察表(6)	22
表8	遺構観察表(7)	23
表9	遺構観察表(8)	24
表10	縄文土器観察表(1)	42
表11	縄文土器観察表(2)	43
表12	縄文土器観察表(3)	44
表13	縄文土器観察表(4)	45
表14	土器観察表	45
表15	打製石器計測表	65
表16	磨製・礫石器観察表	66

挿 図

<p>第1図 調査概要図……………2</p> <p>第2図 グリッド設定図……………3</p> <p>第3図 遺跡位置図……………7</p> <p>第4図 土層柱状図……………9</p> <p>第5図 S K418・344・299・439・276 土坑……………13</p> <p>第6図 S K123・437・144・320土坑…………14</p> <p>第7図 S K161・166・181土坑・ E U261埋設土器・ S K16・51墓壇・S E15井戸…………15</p> <p>第8図 S X149・151・303性格不明遺構・ S M421・422・423集石遺構…………16</p> <p>第9図 第I群土器(1)……………30</p> <p>第10図 第I群土器(2)・第II群土器・ 第III群土器……………31</p> <p>第11図 第IV群土器(1)……………32</p> <p>第12図 第IV群土器(2)……………33</p> <p>第13図 第V群土器・ 第VI群土器(1)……………34</p> <p>第14図 第VI群土器(2)……………35</p> <p>第15図 第VI群土器(3)……………36</p> <p>第16図 第VI群土器(4)・第VII群土器・ VII群土器(1)……………37</p>	<p>第17図 第VII群土器(2)……………38</p> <p>第18図 第VII群土器(3)……………39</p> <p>第19図 第VII群土器(4)……………40</p> <p>第20図 第VII群土器(5)・土偶・土製品・ その他の土器……………41</p> <p>第21図 打製石器(1)……………48</p> <p>第22図 打製石器(2)……………49</p> <p>第23図 打製石器(3)……………50</p> <p>第24図 磨製石斧・磨石(1)……………51</p> <p>第25図 磨石(2)……………52</p> <p>第26図 磨石(3)……………53</p> <p>第27図 磨石(4)……………54</p> <p>第28図 磨石(5)……………55</p> <p>第29図 磨石(6)……………56</p> <p>第30図 磨石(7)……………57</p> <p>第31図 凹石(1)……………58</p> <p>第32図 凹石(2)……………59</p> <p>第33図 凹石(3)……………60</p> <p>第34図 石皿(1)……………61</p> <p>第35図 石皿(2)……………62</p> <p>第36図 石棒・石製装飾品・ 円盤状石製品……………63</p> <p>第37図 温石・砥石・五輪塔風空輪…………64</p>
--	---

図 版

- 図版1 調査区全景・調査風景・A～C区
完掘状況
- 図版2 D～J区完掘状況
- 図版3 SK418、299、276、144完掘状況
・SK439、437半載状況・RP21
出土状況・SP338遺物出土状況
- 図版4 SK123土層断面および完掘状況・
SK166、161半載状況・SK320
完掘状況・SK181精査状況・RP
10、14出土状況
- 図版5 SK149、SX151、SD417完掘
状況・SX303、SE15精査状況・
EU261、SK51、16半載状況・
RP22出土状況
- 図版6 第I群土器
- 図版7 第II群土器・第IV群土器①
- 図版8 第III群土器・第IV群土器②
- 図版9 第IV群土器③
- 図版10 第IV群土器④・第V群土器
- 図版11 第VI群土器①
- 図版12 第VI群土器②
- 図版13 第VI群土器③・第VII群土器・
第VIII群土器①
- 図版14 第VIII群土器②
- 図版15 第VIII群土器③
- 図版16 打製石器①
- 図版17 打製石器②
- 図版18 打製石器③
- 図版19 打製石器④・磨製石斧
- 図版20 磨石①
- 図版21 磨石②
- 図版22 磨石③
- 図版23 磨石④・凹石①
- 図版24 凹石②・石皿①
- 図版25 石皿②・石棒
- 図版26 石製裝飾品・円盤状石製品・温石・
砥石・五輪塔風空輪・とりべ

I 調査の経緯

1 調査に至る経過

大樽遺跡は米沢市の南西部、鶴山地区に所在する。鶴山地区では、平成8年度より新ふるさと整備事業が進められており、それに係り本遺跡を南北に縦貫している一般県道綱木西米沢停車場線の道路改良工事が実施されることとなった。これまで家屋移転等に係り米沢市教育委員会により数回にわたり発掘調査が行われ、縄文時代後期初頭の集落跡が検出されるなどの調査成果があげられている。それらの調査成果から、工実施区域についても遺跡が保存されていることが予想されたため、平成9年度に山形県教育庁文化財課により試掘調査が行われ、工実施区域内にも遺跡が保存されていることが確認された。これをふまえて関係機関で埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われ、工事に先立ち発掘調査を実施して記録保存することとなった。調査は、山形県土木部の委託をうけて財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施することとなった。

調査計画策定のため、平成10年2月3日に現地の確認を行い、調査における問題点の抽出をした。その後、現地調査に先立ち調査担当者による調査対象地域の現状の確認、事業者である山形県土木部米沢建設事務所道路計画課、地元教育委員会である米沢市教育委員会との打ち合わせを平成10年8月6日、同8月14日、同8月28日に行った。

その結果、調査期間の一部の期間について通行止め等の安全措置、工実施部分の家屋移転にあわせた調査の実施、電柱・流雪溝・現道両側の石垣部分の調査区からの除外といった計画の策定をし、平成10年9月7日より現地調査にあたった。

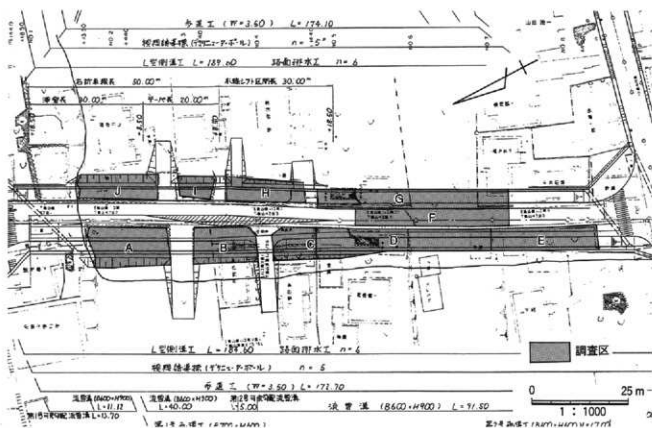
2 調査の方法と経過

事前の計画に従い、調査予定地内にA区～J区までの10の調査区(第1図・第2図)を設定し、家屋の移転に併せて調査を進めた。また通行止め期間の関係から、現状の道路に隣接する部分の調査を優先させた(第1表)。

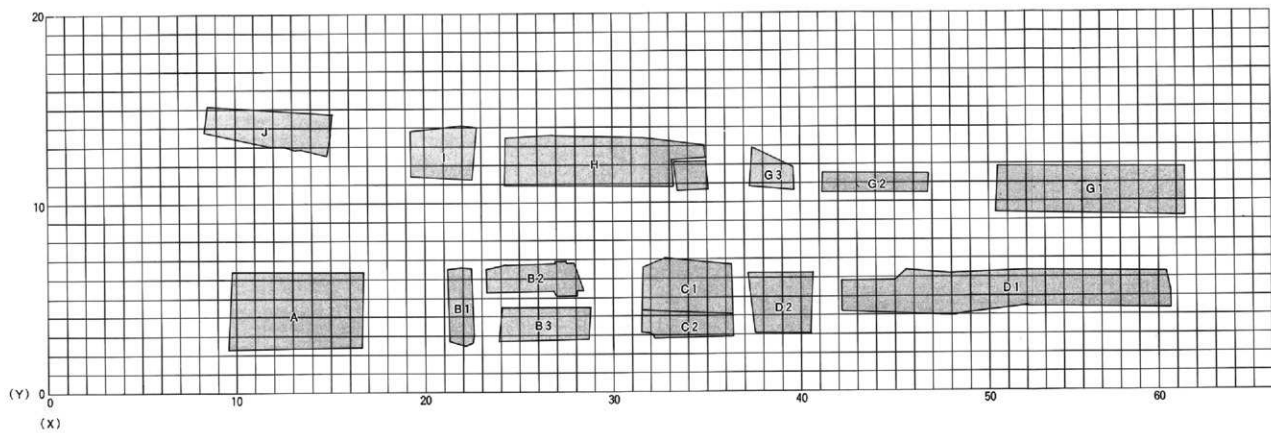
最初に重機で表土部分を除去し、次いで人力で遺構検出面まで掘り下げた。重機により表土を除去する深さは、前年度の試掘調査の結果にしたがっている。ただ調査区の状況によっては重機を稼働させる前に試掘坑を設定し、人力で遺構検出面まで掘り下げ、深さを確認してから重機を導入した。遺構を検出した段階で遺構配置図を作成し、その後、土層観察用ベルトを残し移植べら等の道具を使って、遺構精査を行った。必要に応じて記録を取り、その後土層観察用ベルトをはずした。写真等の記録は上記の調査工程と並行して実施している。なお、付近住民の交通の便を図るため、調査の終了した調査区より必要に応じて道路の仮復旧等の措置をとった。また、事故防止のため必要な部分について防護柵を設置した。各調査区の調査状況は以下の通りである。

A区：調査区の一部には水道管・土管等により攪乱を受けていた。地山は南半で砂礫層となる。遺物包含層は認められなかった。

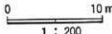
- B区：調査区内のブロック塀は、撤去が不可能であったため、残したまま調査を実施した。
ブロック塀に沿って、使用中の水道管が埋設されていた。またB2区南部は地山まで削平を受けていた。
- C区：電線等の関係から、道路に隣接しているC1区を最初に調査を実施し、埋め戻した後、C2区の調査を実施した。C1区の東壁で土層を確認したところ、当初削平を受けていると予想された部分(道路の下部)は破壊を免れていることが確認された。
- D区：調査区の大半が攪乱を受けていたが、D2区では、遺物包含層が残っていた。
- E区：削平を受けていた。
- F区：現状の道路部分である。水道管・下水道管・NTT通信ケーブル等の埋設物により遺跡の大部分が破壊されていることが確認され、それらの埋設物が現在も使用中であることから調査の必要な部分に関しても期間内に調査を行うことは不可能と判断されたため、協議の結果、工事の際に改めて立会い調査を行うことになった。
- G区：G1区南側は削平を受けていた。試掘調査では、良好な遺物包含層が予想されたが、今回の調査では遺物の出土量は微量であった。
- H区：遺物の出土量が最も多かったが、その大半は二次堆積によるものである。
- I区：近代以降の時期と推定される石組遺構が検出された。
- J区：大半が攪乱を受けていた。中世と推定される堀跡の一部が検出された。



第1図 調査概要図



調査区



第2図 グリッド設定図

表1 調査工程表

月	9月							10月							11月																																													
	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期																																		
日	7	8	9	10	11	16	17	18	21	22	24	25	28	29	30	1	2	5	6	7	8	9	12	13	14	15	19	20	21	22	23	26	27	28	29	30	4	5	6	9	10	11	12	13																
器材搬入																																																												
重機移動																																																												
搬運																																																												
調査用																																																												
A区精査																																																												
B1区精査																																																												
B2区精査																																																												
B3区精査																																																												
C1区精査																																																												
C2区精査																																																												
D1区精査																																																												
D2区精査																																																												
E区精査																																																												
F区精査																																																												
G1区精査																																																												
G2区精査																																																												
G3区精査																																																												
H区精査																																																												
I区精査																																																												
J区精査																																																												
記録																																																												
調査委員会																																																												
資料準備																																																												
器材撤収																																																												

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

大樽遺跡の所在する米沢市は山形県の南西部、米沢盆地の南部に位置する。東に奥羽山脈、南に吾妻山地、西に玉庭丘陵の山々に囲まれており、ほぼ中央部を最上川が北流し、その支流、天王川、羽黒川、鬼面川及び黒川等により形成された扇状地群が広がっている。市域のほぼ四分の三が山地で占められており、平地地は先にあげた扇状地群と河川沿いに見られる河岸段丘等の河谷平野に発達している。

本遺跡の周辺は、吾妻山地の北麓に位置しており、付近の山地には地すべり性緩斜面が非常に多く分布している。遺跡西側には吾妻山地に源を発する鬼面川、大樽川等の河川が北流している。これらの河川沿いに発達している河谷平野は、大樽川・小樽川河谷台地・低地に区分され、米沢盆地南西辺まで広がっている。これらの平地地には数多くの遺跡が立地しており(第3図)、本遺跡も鬼面川と大樽川の合流地点に形成された河岸段丘上に立地し、標高は約274mを測る。また本遺跡の東方には国指定史跡である「一ノ坂遺跡」が所在する。

2 歴史的環境

前節でも述べたように、本遺跡の周辺の平地地、特に吾妻山地北麓には、数多くの遺跡が立地している。これまでに米沢市教育委員会により、「大樽遺跡」(1988・1997・1998)〔()内は調査年、以下同じ〕のほかに「生連寺遺跡」(1986・1993・1994)、大樽川上流部では「塔之原遺跡」(1991)「小野川c遺跡」(1991)の調査が実施されている。そのほかにも大樽川沿いには約30の遺跡が確認されている(第3図)。これらの遺跡のほとんどは縄文時代の遺跡である。また館山という地名が示すように、中世の城館跡が多数確認されており、縄文時代に次いで数が多い。本遺跡の南西部に位置する「館山城」は米沢市内で最大級の山城であり、伊達輝宗の隠居所である可能性も指摘されている。

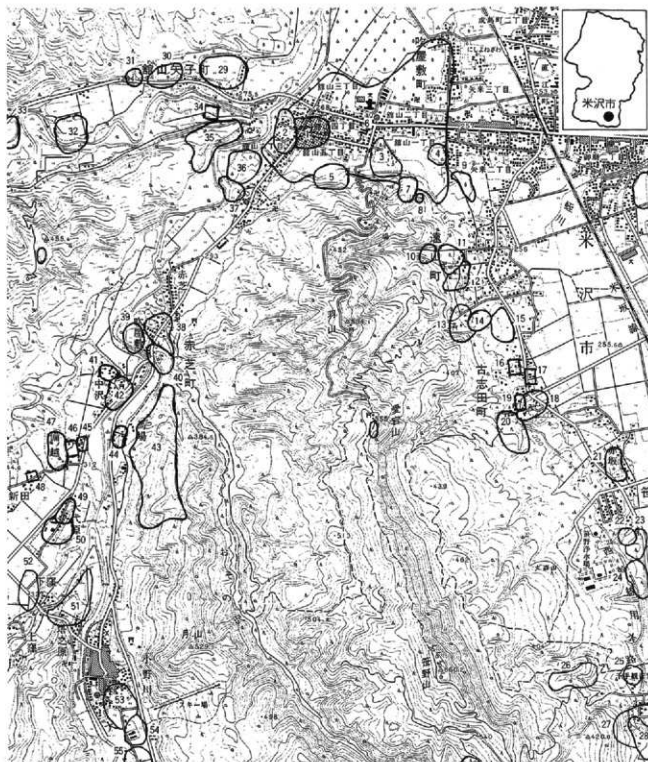
本遺跡を含めた周辺の遺跡のこれまでの調査成果の概要は以下の通りである。

大樽遺跡：早期中葉(田戸上層式併行)・前期(大木1式併行、大木3・4・5式併行)・中期中葉(大木8a・8b式併行)・後期(堀之内I式併行・加曾利B式併行)・晩期(大洞C'式併行)の遺物が出土している。

生連寺遺跡：縄文時代前期初頭・中世の遺構・遺物が確認されている。

塔之原遺跡：前期初頭(上川名I式併行)・前期末葉(大木5式併行)・中期末葉(大木10式併行)の遺構・遺物が検出されており、興津式に類似した土器が出土している。

小野川c遺跡：前期初頭(上川名II式併行)・後期前葉(堀之内式併行)の遺構・遺物が検出されており、近隣の小野川a・b遺跡を含め、縄文時代早期～後期にわたる複合遺跡として位置付けられる。



- 1:大橋 2:館山c 3:生蓮寺 4:館山b 5:館山公園 6:館山平城 7:館山a 8:館山窟跡 9:一ノ坂 10:覚範寺廃寺跡
 11:北沢 12:西明寺 13:地藏園 14:赤芝館 15:通山 16:大在家館 17:古志田館ノ内館B 18:館山b 19:古志田館ノ内館A
 20:古志田 21:笹野町赤坂館 22:八方屋遺北館 23:笹野町 24:古志田館 25:笹野観音堂西 26:館ノ内c 27:大塚山
 28:笹野館ノ内館a 29:館山矢子町 30:矢子 31:口田沢b 32:口田沢a 33:源清水 34:館山城北館 35:館山城 36:館山d
 37:館山e 38:龍性院 39:観音橋 40:吹屋敷 41:角屋敷 42:宝殿神社 43:赤芝館 44:馬場館 45:備越館 46:土手内館
 47:備越西館 48:青戸館 49:化物屋敷 50:大代庫 51:塔之庫 52:下窪 53:小野川d 54:小野川c 55:小野川a

第3図 遺跡位置図(S=1:25,000)

Ⅲ 遺跡の概観

1 遺跡の層序

大樽遺跡の基本層序はおおよそ5層に区分できる(第4図)。Ⅰ層は黒色ないし黒褐色シルト層で、土中に草木根やところによっては多量の礫を含む。C2区やJ区では現代の整地層として認識される。Ⅱ層は黒色シルト層でⅠ層と比べてやや赤みがかかる。砂礫の混入が多くなるが一部均質なところもある。Ⅲ層は黒色シルト層で遺物包含層である。D2区、G1区、H区では安定した様相を呈するが道路付近では攪乱を受けている。G1区が最も厚く堆積しており、次いでD2区、H区の順になる。今回の調査区の外側より良好に遺存していることが予想される。Ⅳ層は黒褐色シルト層で、G1区でのみ観察される。均質で硬くしまっている。Ⅴa層は褐色ないし明黄褐色シルト層で、Ⅴb層(地山)との漸移層である。Ⅴb層は黄褐色ないし褐色を呈する。Ⅴb層上面が遺構検出面である。Ⅴb層の土質はおおよそ3つの様相を呈し、段丘の末端にあたるA区、J区では、砂礫が大勢を占め、段丘の中央にはいつていくにつれ、シルトの割合が多くなり、D1区やG1区では安定したシルト層になる。

G1区においては、南側で一段高い段丘面が形成されることが確認された。E区とD1区の間には表土除去の前段階でやや段差があることが観察され、加えてG1区のより高い面と、E区においては地山面まで削平されていたことから、過去においては、段丘面の比高はより大きかったことが推測し得る。

2 遺構の分布

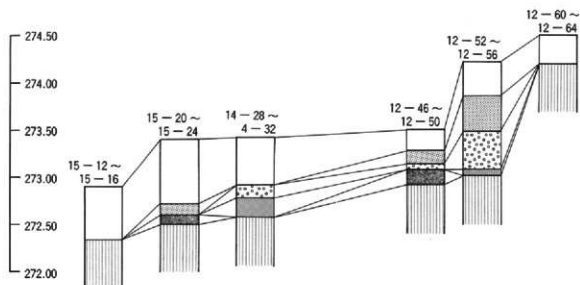
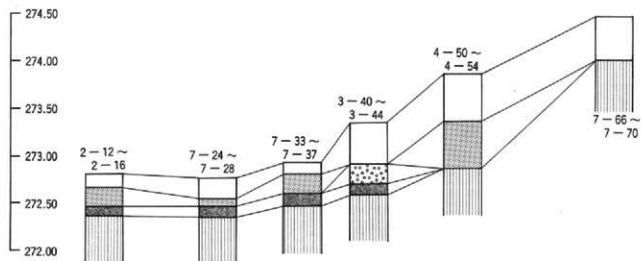
今回の調査で検出された遺構は登録数にして、463を数える。遺物の出土状況および埋土の様相から、その大半が近代以降に構築されたものと推測し得る。遺構の覆土は基本的に1層で、検出面からの深さは約10cmから30cmの範囲におおよそおさまる。

B区、C区、D2区、H区が高い密度をもって分布し、次いで、A区、G1・2区、I区、D1区に多い。調査区全体としてみれば、おおよそY軸20グリッド付近から40グリッド付近に高い密度をもって分布することがいえる。ただ、前述のとおり、遺構のほとんどが近現代のものであり、遺跡の主体となる縄文時代や中世の遺構として確認されたものは数少ない。

3 遺物の分布

今回の調査で出土した遺物は整理箱にして93箱を数える。その大半は縄文土器であり、次いで、礫石器、近現代の陶磁器、打製石器、磨製石器、近世以降の石製品、古銭の順となる。

最も出土量が多いのは、遺物包含層が安定して観察されたH区である。しかしながら、第2節で述べたような遺構の様相であることから、H区に限らず二次堆積である可能性が高い。



- I 黒褐色シルト 表土。現代の整地層。調査区により、礫等の混入物が多い。
- II 黒色シルト 表土。ほぼ安定している。やや赤みがかったり。
- III 黒色シルト 若干の遺物を包含する。ほぼ均質。H区、D2区でやや安定して堆積している。
- IV 暗褐色シルト G1区でのみ確認されている。比較的硬い。
- Va・c 褐色シルト II層とVb層の漸移層の(Va)。III層とVb層の。漸移層(Vc)。
- Vb 褐色シルト 地山。A区南半からB1区、G2区の南部とJ区では礫層となる。その地の調査区では比較的安定するも、一部砂質になるところも見られる。

第4図 土層柱状図

IV 検出された遺構

今回の発掘調査で検出された遺構は登録数にして463を数える。前章で述べたように、大半が近現代あるいは時期不明の遺構である。以下、主に縄文時代と推定される遺構について、その概要を述べる。

1 土坑(第5～7図 図版3・4)

登録した土坑の総数は90を数える。全体の傾向として非常に浅いのが特徴である。基本的に覆土は1層で、黒色あるいは暗褐色シルトの堆積しているものがほとんどである。

S K 344(第5図)：H区、13-26・27グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長164cm、最大幅60cm以上、深さ34cmを測る。覆土は1層からなり縄文土器(32)が出土している。縄文時代前期初頭の所産と考えられる。

S K 439(第5図 図版3)：D 2区、3-38グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長96cm、最大幅94cm、深さ34cmを測る。覆土は2層からなり、縄文土器(38・117)、が出土している。縄文時代前期初頭の所産と考えられる。

S K 418(第5図 図版3)：C 2区、2・3-33-35グリッドに位置する。S X 303に切られている。平面形は円形を呈し、最大長232cm、最大幅110cm以上、深さ55cmを測る。覆土は1層からなり、混入している砂礫はⅡf層に起因すると考えられる。床面はほぼ平坦で、以下は砂礫層となる。床面からR P 21(39)が出土している。縄文時代前期中葉の所産と考えられる。

S K 276(第5図 図版3)：G 1区、9-53・54グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長116cm、最大幅64cm以上、深さ29cmを測る。覆土は1層からなり、床面付近から縄文土器(40)が出土している。縄文時代前期後葉の所産と考えられる。

S K 299(第5図 図版3)：G 2区、11-41グリッドに位置する。S P 298に切られている。平面形は長円形を呈し、最大長167cm、最大幅138cm、深さ24cmを測る。覆土は2層からなる。覆土中から、縄文土器(105)が出土している。縄文時代の所産と考えられる。

S K 123(第6図 図版4)：B 2・3区、3-5-26-28グリッドに位置する。中央付近を南北にブロック塀により切られ、西側をS K 281・282に切られている。東側が削平をうけている。平面形は円形を呈し、最大長408cm、最大幅332cm、深さ20cmを測る。覆土は3層に分かれ、F 1から縄文時代後期前葉の土器(60・61・69)及び縄文土器(130)、F 2・3より縄文時代中期中葉の土器(42・51・56)、スクレイパー(163)、R Q 11磨石(180)、R Q 6凹石(199)が出土している。その他、層位不明の土器(9・50・54)が出土している。R P 7(56)、R P 10(42)、R P 13(51)は床面直上から出土している。R P 10(42)は略完形の土器で、横に押しつぶされた状態で出土している。平面プランや規模、床面の状況から、堅穴住居跡の可能性もあるが、建物を構成する柱穴、炉跡が検出されなかったことから土坑に分類した。縄文時代中期中葉の所産と考えられる。

S K 437(第6図 図版3)：D 2区、3-38・39グリッドに位置する。S P 436に切られ、S P

435を切る。平面形は円形を呈し、最大長102cm、最大幅82cm、深さ51cmを測る。覆土は4層からなり、F4より、縄文土器(105)が出土している。縄文時代後期前葉の所産と考えられる。

S K 320(第6図 図版4)：C2区、2・3-32・33グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長88cm、最大幅61cm以上、深さ25cmを測る。覆土は1層で、縄文土器(129)が出土している。縄文時代後期の所産と考えられる。

S K 144(第6図 図版3)：C1区、6-35グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、最大長144cm以上、最大幅106cm以上、深さ18cmを測る。覆土は1層からなり、縄文土器(124)が、逆位で出土した。縄文時代の所産と考えられる。

S K 161(第7図 図版4)：I区、13-20グリッドに位置する。平面形は長円形を呈し、最大長192cm、最大幅50cm、深さ15cmを測る。覆土は1層からなり、R Q 20磨石(182)、R Q 19石棒(213)が出土している。縄文時代後期の所産と考えられる。

S K 166(第7図 図版4)：I区、13-20・21グリッドに位置する。S K 161、S X 171に切られる。平面形は方形を呈し、最大長120cm以上、最大幅75cm以上、深さ15cmを測る。覆土は1層からなり、縄文土器(77・102)、R Q 17磨製石斧(168)、R Q 18石皿(211)が出土している。縄文時代後期前葉の所産と考えられる。

S K 181(第7図 図版4)：H区、11・12-26グリッドに位置する。平面形は円形を呈し、最大長104cm、最大幅94cmである。内部から人頭大の礫が多数検出された。礫の堆積が人為的であるかは判然としない。礫の中に凹石(198)が含まれていた。覆土は2層からなり、F1より縄文時代後期前葉の土器が出土している。縄文時代後期の所産と考えたい。

2 性格不明遺構(第8図 図版5)

登録数にして、22を数える。土坑や不明ビット等に含まれないものを一括して分類している。平面形は不整形のものが多く、

S X 149(第8図 図版5)：C1区、5・6-35・36グリッドに位置する。S X 151に切られる。平面形は不整形を呈し、最大長257cm以上、最大幅209cm以上、深さ37cmを測る。覆土は2層からなり、F1より、縄文土器(83)が出土している。縄文時代後期前葉以前の所産と考えられる。

S X 151(第8図 図版5)：C1区、4-35・36グリッドに位置する。S X 303との切り合いは不明である。平面形は不整形を呈し、最大長217cm以上、最大幅142cm以上、深さ20cmを測る。覆土は3層からなり、F1より、縄文土器(15・108)が出土している。F3は非常に硬く、張り床の可能性もあるが、建物を構成する柱穴、炉跡等が検出されなかったことから性格不明と分類している。縄文時代後期前葉以前の所産と考えられる。

S X 303(第8図 図版5)：C2区、2-4-34-36グリッドに位置する。S X 151、S M 421・422・423との新旧関係は不明である。平面形は不整形を呈し、最大長304cm以上、最大幅248cm以上、深さ28cmを測る。覆土は1層からなり、縄文土器(13・47-49・122)、土偶(135)、石甕(143)、スクレイパー(149)が出土している。縄文時代中期中葉の所産と考えたい。

3 集石(第8図)

登録数にして、4を数える。構成する礫は、礫石器を含む。覆土に縄文土器を包含するものもあるが、時期は判然としない。

SM421・422・423(第8図)：C2区、3・4-35・36グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。SM421は直径約136cmを測る。礫の中に、磨石(174・178・185)、石皿(212)が含まれていた。SM422・423は直径約64cmを測る。SM423を構成する礫の中に、磨石(179・183・191)が含まれていた。縄文時代の所産と考えたい。

4 埋設土器(第7図 図版5)

登録数にして、3を数える。2基は立ち木や土管等に壊されており掘り方が判然としない(EU187・447)。

EU261(第7図 図版5)：G1区、10-51グリッドに位置する。掘り方の平面形は円形を呈する。縄文土器(134)が逆位に埋設されていた。時期は不明である。

5 墓墳(第7図 図版5)

SK16・51の2基が検出された。いずれも中世の所産である。

SK16(第7図 図版5)：A区、2・3-12・13グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、最大長127cm、最大幅111cm、深さ72cmを測る。覆土は1層からなり、永楽通宝・人骨が出土した。

SK51(第7図 図版5)：A区、2・3-13・14グリッドに位置する。平面形は方形を呈し、最大長138cm、最大幅104cm、深さ67cmを測る。覆土は1層からなり、人骨が出土した。

6 井戸跡(第7図 図版5)

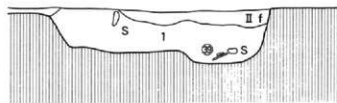
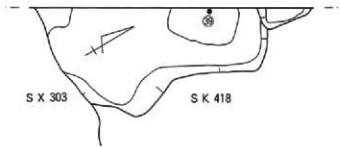
2基が検出された。中近世の所産と考えられる。

SE15(第7図 図版5)：A区、2・3-11・12グリッドに位置する。石組井戸である。平面形は円形を呈し、直径が142cm、深さが200cm以上を測る。SD14に切られており、石組が壊されていたため崩落事故の恐れがあり完掘できなかった。

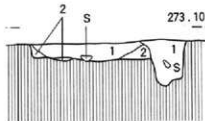
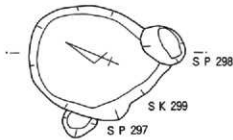
7 堀跡(付図 図版5)

1条検出された。中世の所産と考えられる。

SD417(付図 図版5)：J区、13・14-8~11グリッドに位置する。最大幅224cm、深さ68cmを測る。断面形はV字形を呈し、薬研堀と推定される。北端は段丘崖付近で途切れるようである。A区で検出されなかったことから、東方向へ伸びるか。南方には調査区外まで伸びる。全体の構成は不明である。中世の所産と考えられる。

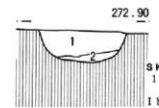
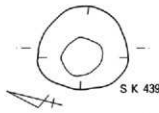


- S K 418
 I 10 YR2/1 黒色シルト 砂礫混じる。ほぼぼしている。
 Ic 7.5 YR3/1 黒褐色シルト 均質。現代の整地層。
 II f 7.5 YR2/1 黒色シルト 砂多量に混じる。S K 418 F 1との間に鉄分の沈殿層がある。

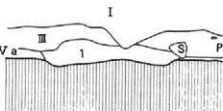
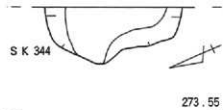


- S P 298
 1 7.5 YR2/1 黒色微砂質シルト S K 299 よりやや赤みがる。ほぼ均質。

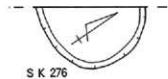
- S K 299
 1 7.5 YR2/1 黒色粘質シルト 10 YR4/6 褐色砂質シルト混じる。
 2 10 YR4/6 褐色砂質シルト I層混じる。濁っている。



- S K 439
 1 7.5 YR3/1 黒褐色シルト
 2 7.5 YR2/1 黒色シルト 炭化物を含む。



- S K 344
 1 10 YR2/1 黒色シルト 礫(径5~10mm)含む(10%)
 I 7.5 YR2/1 黒色シルト 砂礫混じる。
 III 10 YR2/1 黒色シルト 遺物若干含む。均質。



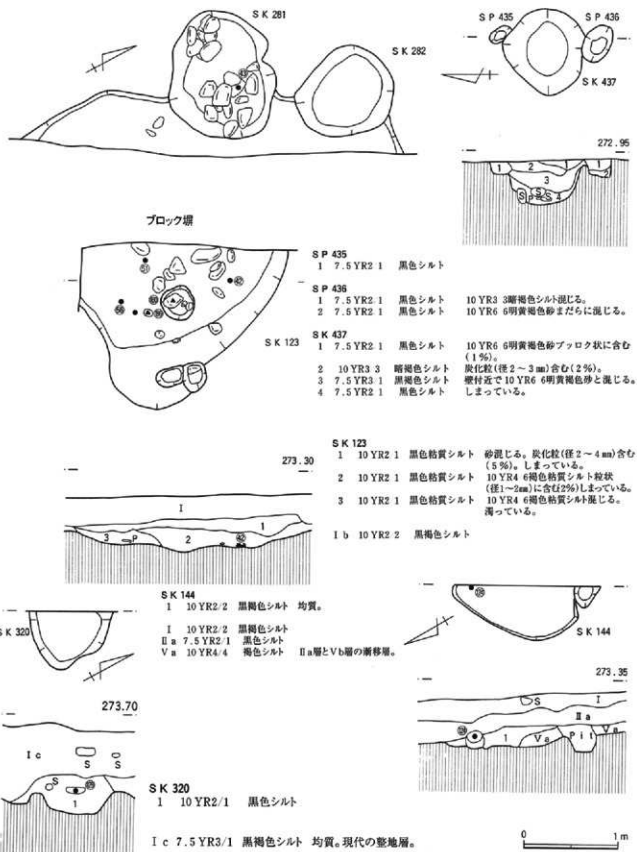
水管道掘り方



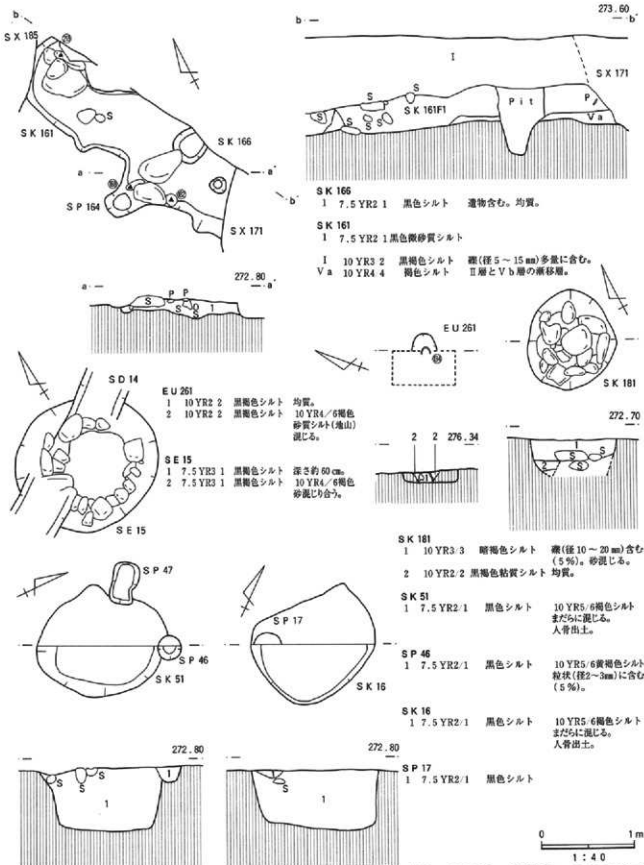
- S K 276
 1 10 YR2/1 黒色粘質シルト IV層の土若干混じる。ほぼ均質。
 I b 10 YR2/2 黒褐色シルト
 II b 7.5 YR2/1 黒色シルト
 III 7.5 YR2/1 黒色シルト



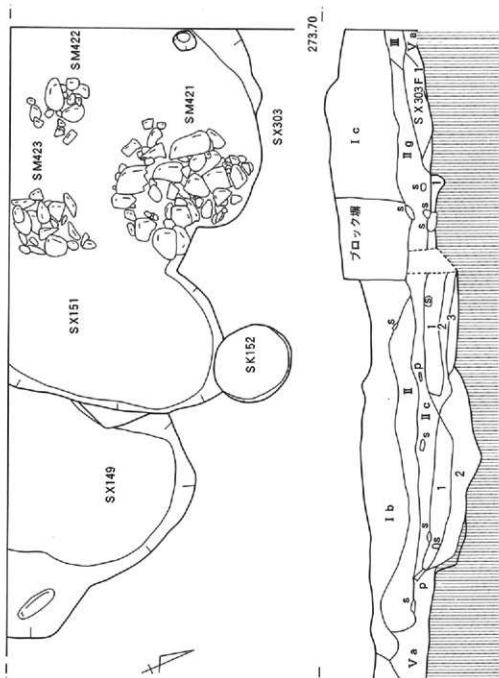
第5図 S K 418・344・299・439・276土坑



第6図 SK 123・437・144・320土坑



第7図 S K 161・166・181土坑・E U 261埋設土器・S K 16・51墓壕・S E 15井戸跡



- I b 10YR2/2黒褐色シルト
- I c 7.5YR3/1黒褐色シルト均質。現代の膨地層。
- II 7.5YR2/1黒色シルト
- II c 7.5YR2/1黒色粘質シルト 遺物若干含む。
- III 7.5YR2/1黒色シルト
- I c よりやや厚い。
- I c 層とII層の漸移層。
- III 10YR2/2黒褐色シルト
- V a 10YR4/4褐色シルト
- II層とV bの漸移層。
- V b 10YR4/4褐色シルト 堆山。
- V c 10YR4/6褐色シルト
- II層とV b層の漸移層。

- SX149**
- 1 10YR2/1黒色粘質シルト 10YR4/6褐色砂ブロック状(径20-30mm)を含む。1 7.5YR2/1黒色粘質シルト 砂混じり。しまっている。
 - 2 10YR2/1黒色粘質シルト 10YR4/6褐色砂まだらに混じる。1層より厚い。
 - 3 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 10YR4/6褐色砂まだらに混じる。硬い。
- SX151**
- 1 10YR4/6褐色砂粒状(径1-3mm)を含む(1%)。酸化鉄(径3-5mm)含む(2%)。遺物含む。
 - 2 10YR4/6褐色砂まだらに混じる。
 - 3 10YR4/6褐色砂まだらに混じる。硬い。
- SX303**
- 1 7.5YR2/1黒色粘質シルト 遺物含む。SX151F1と同じか。

第8図 SX149・151・303・SM421・422・423

表2 遺構観察表(1)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	瓦 石 製品	その他	備考	採目	
SK1	A	2-9・10	不明	土坑	方形	116~	98	46	○					○						付図	
SP2	A	3-9	不明	不明ビッド	長円形	64	56	24												付図	
SP3	A	3-10	不明	草木痕?	円形	46	34	12												付図	
SP4	A	3-9・10	不明	不明ビッド	円形	31	24	22												付図	
SP5	A	3-9	不明	不明ビッド	円形	26	22	12												付図	
SP6	A	4-10	不明	不明ビッド	長円形	30	23	14												付図	
SP7	A	4-10	近現代	不明ビッド	方形	40	30	11												付図	
SP8	A	3-4・10	近現代	不明ビッド	方形	40	36	21												付図	
SP9	A	3-4・10	不明	不明ビッド	円形	38	32	14												付図	
SP10	A	3-10	不明	不明ビッド	方形	38	31	28												付図	
SP11	A	3-10	不明	不明ビッド	不整形	56	40~	13												付図	
SP12	A	3-10	不明	不明ビッド	円形	26	24	21												付図	
SK13	A	2・3・10・11	中近世	墓壇?	円形	172	156	71									○	宮徳通寶 2・儀1		付図	
SD14	A	2-10-13	現代	水道管	溝	486~	56										○			付図	
SE15	A	2・3-11・12	中近世	石籠井戸	円形	142	142	200~									○	スクレイ パー1	陶磁器・ 骨	付図	
SK16	A	2・3-12・13	近世	墓壇	方形	127	111	72									○		水車通寶 2・人骨	第7図	
SP17	A	2-12・13	近現代	不明ビッド	円形	31	31	8												付図	
SP18	A	3-13	不明	不明ビッド	方形	28	16	18												付図	
SK19	A	3-12	縄文	土坑	方形	104	82	38										○	スクレイ パー1	付図	
SP20	A	3-12	縄文	不明ビッド	円形	58	32	25									○			付図	
SP21	A	3-12	縄文	不明ビッド	円形	32	22	22												付図	
SP22	A	3-12	不明	不明ビッド	円形	30	25	17												付図	
SP23	A	3-4・12	不明	不明ビッド	長円形	49	22	38						○						付図	
SP24	A	3-4・12	不明	不明ビッド	円形	33~	33	21												付図	
SP25	A	4-12	不明	不明ビッド	円形	26	22	18												付図	
SP26	A	3-12	不明	不明ビッド	円形	47	39	18												付図	
SP27	A	3-12	不明	不明ビッド	円形	22~	22	9												付図	
SP28	A	3-12・13	不明	不明ビッド	円形	22~	22	13												付図	
SP29	A	3-13	不明	不明ビッド	円形	16	16	11												付図	
SP30	A	3-4・13	不明	不明ビッド	円形	26	24	19												付図	
SP31	A	4-13	不明	不明ビッド	長円形	29	21	22												付図	
SP32	A	4-12	不明	不明ビッド	円形	26	24	11												付図	
SP33	A	4-12	不明	不明ビッド	円形	58	32	15												付図	
SP34	A	3-4・12・13	不明	不明ビッド	円形	23	23	9												付図	
SP35	A	3-11	不明	不明ビッド	円形	22	22	21												付図	
SK36	A	3-11	近現代	廃棄坑	方形	125	60	5												付図	
SK37	A	3-4・11	近現代	廃棄坑	不整形	132	125	2									○		磨石1	付図	
SP38	A	2-13	不明	不明ビッド	方形	42	34	15												付図	
SP39	A	2-13	不明	不明ビッド	円形	33	30	23									○			付図	
SP40	A	3-13	不明	不明ビッド	円形	35	32	33												付図	
SP41	A	3-13	不明	不明ビッド	円形	46	46	43												付図	
SK42	A	3-4・13・14	縄文	土坑	円形	138	134	43												付図	
SP43	A	2-13	近現代	不明ビッド	長円形	82~	58~	19												付図	
SP44	A	2-13	不明	不明ビッド	長円形	30	24	13	○											付図	
SP45	A	2-13	不明	不明ビッド	円形	14~	14~	5~												付図	
SP46	A	2-13	近現代	不明ビッド	円形	25	25	17												第7図	
SP47	A	2-13	近現代	不明ビッド	方形	44	25	11												第7図	
SP48	A	2-14	不明	不明ビッド	円形	20	20	7												付図	
SP49	A	2-14	近現代	不明ビッド	方形	36~	20~	28												付図	
SP50	A	2-14	近現代	不明ビッド	方形	35	35	11												付図	
SK51	A	2・3-13・14	近世	墓壇	方形	138	104	67	○								○		磨石1	人骨	第7図
SP52	A	3-13	不明	不明ビッド	長円形	46	32	22												付図	
SP53	A	3-14	不明	不明ビッド	円形	22	22	21												付図	
SP54	A	3-14	不明	不明ビッド	円形	33	33	10												付図	
SP55	A	3-14	不明	不明ビッド	円形	19	19	14												付図	
SP56	A	3-14	不明	不明ビッド	長円形	34	30	14												付図	
SP57	A	3-14	不明	不明ビッド	長円形	65	47	23												付図	
SP58	A	2・3-14	近現代	草木痕	円形	27	27	14												付図	
SK59	A	2・3-14	近現代	土坑	長円形	98	34	9									○			付図	
SK60	A	2-14・15	近現代	土坑	不整形	162	134	35									○			付図	
SP61	A	3-4・15	不明	不明ビッド	長円形	50	40	32												付図	
SP62	A	3-4・15	不明	不明ビッド	長円形	40	36	13												付図	
SP63	A	4-10	近現代	不明ビッド	方形	34	34	6												付図	
SK64	A	4・5-10・11	近現代	土坑	長円形	264	164~	30												付図	
SP65	A	5-11	近現代	不明ビッド	円形	38	38	8												付図	
SP66	A	5-6-19	不明	不明ビッド	長円形	49	44	16												付図	

検出された遺構

表3 遺構観察表(2)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	石器・石製品	その他	備考	採回	
SP67	A	4-11	不明	不明ビット	円形	22	22	17														付随	
SP68	A	4-5-12	不明	不明ビット	長円形	48	36	21															付随
SP69	A	5-12	不明	不明	草木痕	26	26	6															付随
SK70	A	5-12・13	不明	土坑	円形	91	91	12															付随
SK71	A	5-6-12・13	不明	土坑	長円形	106	82	20															付随
SP72	A	5-13	不明	不明ビット	円形	30	30	14															付随
SK73	A	4-12・13	不明	土坑	円形	80	80	36															付随
SK74	A	4-5-12・13	不明	土坑	長円形	179	109	17															付随
SP75	A	5-13	不明	不明ビット	円形	43	43	11															付随
SK76	A	6-13・14	不明	土坑	円形	88	88	24															付随
SP77	A	4-15	不明	不明ビット	長円形	48	27	21															付随
SK78	B1	5-6-22	近現代	土坑	円形	160	89	48															付随
SK79	B1	5-6-21・22	不明	土坑	不整形	192	154	20															付随
SP80	B1	6-21	不明	不明ビット	長円形	63	49	11															付随
SP81	B1	5-21	不明	不明ビット	長円形	46	27	6															付随
SK82	B1	5-21	不明	土坑	長円形	104	57	24															付随
SP83	B1	5-22	不明	不明ビット	円形	38	32	16															付随
SP84	B1	5-22	不明	不明ビット	円形	38	34	11															付随
SK85	B1	4-5-21・22	縄文	土坑	長円形	69	58	17															付随
SK86	B1	3-4-21	不明	土坑	不整形	196	80	13															付随
SP87	B1	4-21・22	不明	不明ビット	円形	34	34	15															付随
SP88	B1	4-22	中期	不明ビット	円形	41	41	10															付随
SP89	B1	4-22	不明	不明ビット	長円形	42	34	14															付随
SP90	B1	3-22	不明	不明ビット	円形	46	44	26															付随
SP91	B1	3-4-21・22	不明	不明ビット	円形	54	54	30															付随
SP92	B1	3-4-21・22	不明	不明ビット	円形	34	34	22															付随
SP93	B1	4-21	不明	不明ビット	円形	42	42	14															付随
SP94	B1	4-21	不明	不明ビット	円形	34	34	19															付随
SP95	B1	3-4-21	不明	不明ビット	円形	57	57	18															付随
SK96	B1	3-22	縄文	土坑	長円形	65	46	28															付随
SP97	B1	3-22	不明	不明ビット	円形	25	25	—															付随
SK98	B1	2-3-21・22	不明	落ち込み	不整形	310	130	25															付随
SP99	B1	2-3-21	不明	不明ビット	円形	50	50	15															付随
SK100	B2	5-6-23・24	近現代	土坑	不整形	206	106	19															付随
SP101	B2	6-23・24	不明	不明ビット	長円形	50	36	11															付随
SP102	B2	6-23	不明	不明ビット	長円形	52	28	23															付随
SK103	B2	6-24	近現代	土坑	方形	134	133	22															付随
SP104	B2	5-24	不明	不明ビット	円形	30	30	23															付随
SP105	B2	5-24・25	不明	不明ビット	円形	26	26	9															付随
SP106	B2	5-6-25	不明	不明ビット	円形	39	39	16															付随
SP107	B2	5-6-25	不明	不明ビット	長円形	40	31	23															付随
SK108	B2	6-25・26	近現代	土坑	不整形	225	92	24															付随
SP109	B2	6-25	不明	不明ビット	円形	18	18	5															付随
SP110	B2	6-25	不明	不明ビット	円形	30	28	12															付随
SP111	B2	5-25	縄文	不明ビット	長円形	46	40	16															付随
SP112	B2	5-25	不明	柱穴か?	不整形	42	34	20															付随
SP113	B2	5-6-26	不明	不明ビット	方形	40	40	20															付随
SK114	B2	5-26	不明	土坑	方形	94	80	7															付随
SP115	B2	6-26	不明	不明ビット	円形	18	18	10															付随
SP116	B2	5-26	不明	不明ビット	円形	22	22	15															付随
SP117	B2	6-26	不明	不明ビット	円形	34	34	9															付随
SP118	B2	6-26	不明	不明ビット	円形	24	24	—															付随
SK119	B2	6-26・27	不明	土坑	円形	117	106	11															付随
SK120	B2	6-27	中期	土坑	円形	123	88	5															付随
SP121	B2	6-27	不明	草木痕?	円形	29	26	12															付随
SP122	B2	6-27	不明	不明ビット	円形	13	13	4															付随
SK123	B2・B3	3-5-26~28	中期	住居跡か?	円形	408	332	20															第6期
SP124	C1	4-5-31・32	縄文	不明ビット	円形	40	36	21															付随
SP125	C1	4-5-31・32	縄文	不明ビット	円形	40	36	21															付随
SP126	C1	4-31・32	不明	不明ビット	長円形	23	26	27															付随
SP127	C1	4-32	不明	不明ビット	長円形	53	25	34															付随
SP128	C1	4-32	不明	不明ビット	円形	62	46	12															付随
SP129	C1	5-32	縄文	不明ビット	長円形	54	32	5															付随
SP130	C1	5-32	不明	不明ビット	円形	32	30	25															付随
SK131	C1	4-5-32・33	近現代	性格不明	不整形	218	134	29															付随
SK132	C1	4-32・33	近現代	性格不明	長円形	182	141	45															付随

表4 遺構観察表(3)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	石器・ 石製品	その他	備考	埋戻	
SX133	C1	4-6-33・34	近現代	池跡	円形	330	250	94												陶磁器・ 砥石1・ 不明金属 製品		付戻	
SP136	C1	6-33	縄文	不明ビッド	円形	27	27	23														付戻	
SP137	C1	6-33	縄文	不明ビッド	不整形	82	43	23														付戻	
SP138	C1	6-33	不明	不明ビッド	長円形	45	30	16														付戻	
SP139	C1	6-33	不明	不明ビッド	円形	54	40	40											石皿1			付戻	
SP140	C1	6-33	縄文	不明ビッド	円形	50	46															付戻	
SK141	C1	6-33・34	縄文	土坑	円形	130~	46~	15	○													付戻	
SP142	C1	6-34	縄文	不明ビッド	円形	26	26	11														付戻	
SP143	C1	6-34	不明	柱穴	円形	26	23	38														付戻	
SK144	C1	6-35	縄文	土坑	円形	114~	106~	18														第5回	
SK146	C1	5-34・35	不明	土坑	円形	131	131	31														付戻	
SP147	C1	5-6-35	縄文	不明ビッド	円形	50	50	24														付戻	
SP148	C1	6-35	不明	不明ビッド	円形	21	21	13														付戻	
SX149	C1	5-6-35・36	縄文	落ち込み	不整形	267~	209~	37														第8回	
SX151	C1	4-35・36	縄文	落ち込み	不整形	217~	142~	20	○													SX303と 同一か?	第8回
SK152	C1	4-34・35	後期	不明ビッド	円形	82	73	17														動物骨	第8回
SP153	C1	4-34・35	不明	不明ビッド	円形	32	32	9														付戻	
SK154	C1	4-34	近現代	土坑	円形	83	83	13														付戻	
SP155	C1	4-34	不明	不明ビッド	長円形	33	22															付戻	
SP156	I	11-19・20	不明	不明ビッド	円形	49	49	9														付戻	
SX158	I	12・13-19・20	現代	性格不明	方形	376~	96	7	○										磨石2・ 石棒1・ 円盤状石 製品	陶磁器	SX167と 関連する か?	付戻	
SP159	I	12・13-19	不明	不明ビッド	円形	54	38~	8														付戻	
SP160	I	13-20	不明	不明ビッド	長円形	46	26	10														付戻	
SK161	I	13-20	縄文	土坑	長円形	192	50	15											磨石1・ 石棒1			第7回	
SP162	I	13-20	不明	不明ビッド	円形	26	22	20														付戻	
SP163	I	13-20	不明	不明ビッド	円形	44	36	13														付戻	
SP164	I	13-20	不明	不明ビッド	円形	28	26	16											磨石2			第7回	
SP165	I	13-21	近現代	不明	不明ビッド	円形	32	32	30													付戻	
SK166	I	13-20・21	後期	土坑	方形	120~	75~	15											磨製石斧 1・石皿 1			第7回	
SX167	I	11~13-20・21	近現代	性格不明	方形	381	338	28	○										磨石2・ 磨石2	宝珠磨り 1・砥石 1・不明 金属製品 ・頁岩2		付戻	
SK168	I	11-21	近現代	土坑	長円形	128	69	21												陶磁器・ 不明金属 製品		付戻	
SP169	I	13-21	不明	不明ビッド	円形	35	30	11														付戻	
SP170	I	13-21・22	不明	不明ビッド	円形	30	30	6														付戻	
SX171	I	13-21・22	現代	池跡?	円形	262	144~	23											石棒1	陶磁器		付戻	
SP172	I	13-22	不明	不明ビッド	円形	26	20	9														付戻	
SP173	I	13-22	不明	不明ビッド	円形	46	40	12														付戻	
SP174	I	13-22	不明	不明ビッド	円形	-	-	-														付戻	
SK175	I	12・13-22	不明	土坑	円形	117	117	23														付戻	
SK176	H	10-26	縄文	土坑	円形	98	94~	22														付戻	
SP177	H	11-26	不明	不明ビッド	円形	-	-	-														位置不明	
SP178	H	11-26	不明	不明ビッド	円形	48	48	18														付戻	
SP179	H	11-25	不明	不明ビッド	円形	27	27	13														付戻	
SP180	H	11-25	不明	不明ビッド	長円形	47	34	26														付戻	
SK181	H	11-12-26	接脚	土坑	円形	104	94	-														第7回	
SK182	H	11-25・26	不明	土坑	長円形	103	74	21														付戻	
SP183	H	11-12-25	近現代	不明ビッド	円形	48	48	16														付戻	
SD184	H-G3	11~13-19~37	近現代	用水跡	溝		80	31	○	○									スクレイ パー1・ 石棒・磨 石		昭和28年 頃に埋め られる。	付戻	
SP185	H	12-25	不明	不明ビッド	円形	-	-	-														位置不明	
SX186	H	12・13-25・26	近現代	機軸	不整形	262~	184~	22											スクレイ パー1	陶磁器	SX171と 同一か?	付戻	

表5 遺構観察表(4)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	石器・石製品	その他	備考	神田	
EU187	A	3-9	縄文	竪設土器	円形	—	—	—														
SP188	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	36	30	5														燻土あり
SP180	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	30	24	6														付属
SP190	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	44	32	13														付属
SP191	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	42	22	5														付属
SP192	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	24	20	3														付属
SP193	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	36	24	17														付属
SK194	B3	2・3-24・25	不明	土坑	円形	212	180	20														付属
SK195	B3	3・4-24・25	不明	土坑	不整形	194~	144~	28														付属
SP196	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	46	42	14														付属
SP197	B3	3-24・25	不明	不明ビッド	円形	48	46	13														付属
SK198	B3	4-25	不明	不明ビッド	円形	94	74	25														付属
SK199	B3	3-25	不明	不明ビッド	円形	50	30	21														付属
SP200	B3	3-25	不明	不明ビッド	円形	36	32	12														付属
SP201	B3	3-24	不明	不明ビッド	円形	30	22	10														付属
SP202	B3	2-24	不明	不明ビッド	円形	38	30	13														付属
SP203	B3	2-25	不明	不明ビッド	円形	40	40	11														付属
SK204	B3	2・3-25	不明	土坑	円形	112	100	19														付属
SK205	B3	2・3-25・26	不明	土坑	円形	92	66	26														付属
SP206	B3	3-25	不明	不明ビッド	長円形	82	48	24														付属
SP207	B3	3-25	不明	不明ビッド	円形	30	26	5														付属
SP208	B3	3-25・26	不明	不明ビッド	円形	38	35	8														付属
SP209	B3	3・4-25・26	不明	不明ビッド	不整形	62	60	11														付属
SK210	B3	3-25	不明	土坑	円形	72	72	20														付属
SP211	B3	3・4-25	不明	不明ビッド	円形	46	32	21														付属
SP212	B3	4-25・26	不明	不明ビッド	円形	40	32	5														付属
SP213	B3	3-26	不明	不明ビッド	円形	16	14	9														付属
SP214	B3	3-26	不明	柱穴?	長円形	40	28	21														付属
SP215	B3	3-26	不明	不明ビッド	長円形	54	28	85														付属
SX216	B3	2・3-25・26	不明	性格不明	円形	188	88~	16														遺構2-3 切り合うか?
SP217	B3	2・3-26・27	不明	不明ビッド	円形	56	44	20														付属
SP218	B3	3-26・27	不明	不明ビッド	長円形	50	38	89														付属
SP219	B3	3-26	不明	柱穴	円形	42	32	18														付属
SP220	B3	3-26	不明	不明ビッド	円形	28	24	13														付属
SP221	B3	3・4-26	不明	不明ビッド	円形	36	34	11														付属
SP222	B3	4-26	不明	不明ビッド	長円形	32	22	11														付属
SP223	B3	4-25・26	不明	柱穴	不整形	116	80	19														付属
SP225	B3	4-27	不明	不明ビッド	円形	32	28	14														付属
SP226	B3	3-27	不明	不明ビッド	円形	28	28	7														付属
SX227	B3	2・3-27	近現代	建物基礎?	溝	200	58	25														不明金属 製品
SX228	B3	2・3-27	不明	性格不明	不整形	70	44	21														付属
SK229	B3	3-27・28	不明	土坑	不整形	128	92	24														付属
SP230	B3	3-27	不明	不明ビッド	円形	48	42	14														付属
SP231	B3	3・4-27・28	不明	不明ビッド	不整形	52	36	15														付属
SP232	B3	4-27・28	不明	不明ビッド	円形	24	20	13														付属
SP233	B3	3・4-27	不明	不明ビッド	長円形	24	16	11														付属
SP234	B3	4-27	不明	不明ビッド	長円形	24	18	7														付属
SX235	B3	2~4-28	近現代	落ち込み?	不整形	280	150	21														礎石 1
SP236	B3	4-28	不明	不明ビッド	円形	32	28	9														付属
SP237	B3	2・3-28	不明	不明ビッド	長円形	30	14	6														付属
SK238	C1	4・5-34・35	中近世	土坑	円形	160	154	66														コタツ行 火・寛水 通費 1
SP239	G1	9-50	不明	不明ビッド	円形	20	24	11														付属
SP240	G1	9-50	不明	不明ビッド	長円形	24	32	9														付属
SP241	G1	10-49・50	不明	不明ビッド	長円形	72	20	20														付属
SK242	G1	11-49	不明	土坑	円形	56	44	13														付属
SK243	G1	11-49・50	不明	土坑	長円形	88	66	29														付属
SP244	G1	11-50	不明	不明ビッド	円形	44	36	18														付属
SP245	G1	11-50	不明	不明ビッド	円形	39	32	27														付属
SP246	G1	11-50	不明	不明ビッド	円形	44	36	12														付属
SP247	G1	11-50・51	不明	不明ビッド	長円形	36	28	8														付属
SP248	G1	11-51	不明	不明ビッド	円形	40	32	4														付属
SP249	G1	11-52	不明	不明ビッド	長円形	32	24	12														付属
SP250	G1	10-51	縄文	不明ビッド	円形	32	32	14														付属
SP251	G1	10-50・51	不明	不明ビッド	長円形	24	16	7														付属
SP252	G1	10-50・51	不明	不明ビッド	円形	32	28	12														付属

表6 遺構観察表(5)

遺構 番号	地区	グリッド	時期	種類	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	石製・ 石製品	その他	備考	挿図		
SP253	G1	9-50・51	縄文	不明ビット	長円形	34	24	2													付図		
SP254	G1	9-51	不明	不明ビット	長円形	28	28	19				○									付図		
SP255	G1	10-51	不明	不明ビット	円形	24	30	19													付図		
SP256	G1	10-51	不明	草太線?	円形	20	18	10													付図		
SP257	G1	10-52	不明	不明ビット	長円形	36	24	17													付図		
SP258	G1	10-52	不明	不明ビット	円形	32	28	11													付図		
SP259	G1	10・11-51・52	不明	不明ビット	円形	40	32	16													付図		
SP260	G1	10・11-52	不明	不明ビット	円形	28	28	16													付図		
BU261	G1	10-51	縄文	埋設土器	円形	68	52	13									○				第7図		
SP262	G1	11-51・52	不明	不明ビット	円形	28	28	11													付図		
SP263	G1	11-51	不明	不明ビット	円形	20	18	5													付図		
SP264	G1	11-51	不明	不明ビット	円形	30	26	12													付図		
SP265	G1	9-52	不明	不明ビット	円形	20	20	26										○			付図		
SP266	G1	10-52	不明	不明ビット	方形	24	24	10										○			付図		
SP267	G1	9・10-53	不明	不明ビット	円形	20	16	8													付図		
SP268	G1	10-53	不明	不明ビット	円形	22	22	12													付図		
SP269	G1	10-52	不明	不明ビット	長円形	26	18	8													付図		
SP270	G1	11-52	不明	不明ビット	長円形	24	16	8													付図		
SP271	G1	11-53	不明	不明ビット	長円形	48	28	30													付図		
SP272	G1	10-53	不明	不明ビット	円形	18	18	12													付図		
SP273	G1	10-53	不明	不明ビット	円形	34	30	15										○			付図		
SP274	G1	10-53	縄文	不明ビット	円形	24	20	16													付図		
SP275	G1	10-53	不明	不明ビット	円形	12	10	10													付図		
SK276	G1	9-53・54	前期	土坑	円形	116	64	29			○										第5図		
SP277	G1	10-54	不明	不明ビット	円形	18	16	11													付図		
SP278	G1	10-54	不明	不明ビット	長円形	24	16	13													付図		
SE279	G1	9・10-54・55	宮世	竪断井戸	円形	152	144	41													付図		
SD280	G1	9-11-55・56	不明	溝状遺構	溝	450	206	27													付図		
SK281	B3	3・4-27	近現代	土坑	円形	280	138	15				○							石製1・ 灰青品1	陶磁器		第6図	
SK282	B3	4-28・29	不明	土坑	長円形	96	88	22														第6図	
SP283	I	13-21	近現代	不明ビット	長円形	36	28	25											○			付図	
SP284	B2	5-28・27	中期	不明ビット	円形	32	30	20				○										付図	
SP285	B2	5-27	不明	不明ビット	円形	24	20	15														付図	
SP286	G2	10-46	不明	不明ビット	円形	52	48	19														付図	
SP287	G2	11-46	不明	不明ビット	不明	—	—	—														位置不明	
SK288	G2	10・11-45・46	不明	溝状遺構	溝	268	95	37											磨石1			付図	
SK289	G2	11-44	現代	竪溝溝	不整形	—	—	—														付図	
SK290	G2	10・11-42~44	不明	落ち込み	円形	476	225	22				○							○	石黒1		付図	
SP291	G2	10-43	不明	不明ビット	円形	56	42	35														付図	
SP292	G2	10-43	不明	不明ビット	円形	18	14	8														付図	
SP293	G2	10-42	不明	不明ビット	円形	56	50	44				○										付図	
SP294	G2	11-42	不明	不明ビット	円形	29	25	14														付図	
SK295	G2	11-42	宮世代	土坑	長円形	189	148	49											○			陶磁器	
SP296	G2	10-42	不明	不明ビット	円形	46	42	33														付図	
SP297	G2	11-41	不明	不明ビット	円形	32	32	8														第5図	
SP298	G2	11-41	不明	不明ビット	円形	46	40	47														第5図	
SK299	G2	11-41	前期	土坑	長円形	167	138	24				○										第5図	
SK300	G2	10-11	不明	土坑	円形	128	94	37														頁岩1	
SP301	G2	10-42	不明	不明ビット	円形	14	12	18												○		付図	
SP302	G3	11-37	不明	不明ビット	円形	30	28	31														付図	
SK303	C2	2-4-34~36	中期	落ち込み	不整形	304	248	28	○			○								石黒1・ スラレイ パター1	陶磁器・ 砥石1	SX151と 同一?	第8図
SP304	C2	2-33・34	不明	不明ビット	方形	48	24	3														付図	
SP305	C2	3-34	現代	不明ビット	円形	28	28	28														付図	
SP306	C2	3-34	現代	不明ビット	円形	24	22	12														付図	
SP307	C2	3-34	不明	不明ビット	円形	54	48	40														付図	
SP308	C2	3-34	現代	不明ビット	円形	24	24	19														付図	
SP309	C2	4-34	現代	不明ビット	円形	32	26	14														付図	
SX310	C2	3-33・34	現代	建物基礎	溝	162	25	11														付図	
SK311	C2	3-33・34	不明	土坑	円形	36	32	32														付図	
SP312	C2	3-33	不明	土坑	円形	40	36	42														付図	
SK313	C2	2・3-33	不明	土坑	不整形	176	69	11														付図	
SP314	C2	3-33	現代	不明ビット	円形	58	52	30														陶磁器	
SX315	C2	3-33	現代	建物基礎	溝	146	22	7														付図	
SP316	C2	2・3-33	不明	不明ビット	円形	74	45	9														付図	
SP317	C2	3-33	現代	不明ビット	円形	23	23	6														付図	
SP318	C2	3-33	不明	不明ビット	円形	20	16	9														付図	
SP319	C2	3-32	現代	不明ビット	円形	46	44	25														付図	

表7 遺構観察表(6)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	石器・ 石製品	その他	備考	採回	
SK320	C2	2・3-32・33	後縄	土坑	円形	88	61	25														第5区	
SP321	C2	3-33	不明	不明ビット	円形	62	56	56														付回	
SP322	C2	3・4-33	現代	不明ビット	円形	34	28	16														付回	
SP323	C2	4-33	現代	不明ビット	円形	80	64	20														付回	
SP324	C2	4-32	現代	不明ビット	円形	32	32	20														付回	
SP325	C2	3-32	現代	不明ビット	円形	20	18	7														付回	
SP326	C2	3-32	現代	不明ビット	不整形	44	34	14													ビット2- 3切り合う か?	付回	
SP327	C2	3-32	現代	不明ビット	円形	20	20	7														付回	
SP328	C2	3-32	現代	不明ビット	円形	24	20	8														付回	
SP329	C2	3-32	不明	不明ビット	不整形	63	30	20														付回	
SP330	C2	3-32	不明	不明ビット	円形	30	30	15														付回	
SP331	C2	3-32	不明	不明ビット	円形	24	20	10														付回	
SP332	C2	3-32	不明	不明ビット	不整形	54	44	13														付回	
SP333	C2	3-32	不明	不明ビット	円形	34	32	19														付回	
SP334	C2	3-31	不明	不明ビット	円形	28	20	6.5														付回	
SP335	C2	3-31	不明	不明ビット	長円形	50	40	16														付回	
SP336	C2	3-31・32	不明	不明ビット	円形	44	42	9	○										スクレイ パー1・ 磨石1			付回	
SP337	C2	不明	不明	不明ビット	不明	-	-	-	○													位置不明	
SP338	C2	3-31	不明	不明ビット	円形	32	28	11														付回	
SX339	C2	2・3-31・32	不明	住居跡?	不整形	268	101	8				○							磨石1		F1より 確認土器 出土。磨 石有り。 住居跡?	付回	
SX340	C2	4-31・32	現代	建物基礎	方形	608	82	41				○		○	○							頁岩1	
SX341	H	11・12-26~29	近現代	風銅木痕	円形	568	354	90	○	○									石器2・ スクレイ パー3・ 磨石1・ 磨石1・ 磨石1・ 磨石1・ 磨石1	陶磁器・ 砥石1		付回	
SP342	H	11-26・27	不明	不明ビット	円形	40	36	3														付回	
SP343	H	12・13-27	不明	不明ビット	円形	52	52	14												スクレイ パー1		付回	
SK344	H	13-26・27	前期	土坑	円形	164	60	34														第5区	
SP345	H	13-28	不明	不明ビット	円形	60	48	24	○													付回	
SP346	H	12・13-28・29	不明	不明ビット	長円形	100	68	16														付回	
SP347	H	12-29	不明	不明ビット	円形	40	40	10														付回	
SK348	H	11・12-29	不明	土坑	不明	-	-	-														付回	
SP349	H	12-29	不明	不明ビット	円形	24	24	19														付回	
SK350	H	11・12-29・30	不明	土坑	不整形	112	112	11														付回	
SK351	H	10・11-30	近現代	汚水溝?	不整形	200	186	64				○		○					スクレイ パー1・ 磨石1			付回	
SP352	H	12・13-30	不明	不明ビット	円形	50	50	17														付回	
SP353	H	12-30	不明	不明ビット	円形	44	44	15														付回	
SP354	H	11-30・31	不明	不明ビット	円形	36	36	20														付回	
SK355	H	11-30~32	近現代	土坑	長円形	210	154	65	○	○										スクレイ パー1・ 凹石2		付回	
SK356	H	12・13-30・31	現代	土坑	長円形	282	227	38	○	○										スクレイ パー1・ 磨石1・ 凹石2	とりべ・ 陶磁器		付回
SP357	H	12-31・32	不明	不明ビット	円形	34	28	8														付回	
SP358	H	12-32	不明	不明ビット	円形	38	36	23														付回	
SP359	H	12-32	不明	不明ビット	円形	40	34	15														付回	
SP360	H	12-32	不明	不明ビット	円形	50	50	27														付回	
SX361	H	12-32	不明	不明ビット	長円形	56	44	6														付回	
SX362	H	12・13-31・32	縄文	落ち込み?	不整形	134	88	19	○										磨石石芥 1		遺物はSD 採り得る の可能性 あり	付回	
SP363	H	13-31	不明	不明ビット	長円形	68	24	15														付回	

表8 遺構観察表(7)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	石器・ 石製品	その他	備考	種別	
SK364	H	10~12-32・33	近現代	土坑	不整形	276	240	38	○			○		○					スクレイパー1・2・3 磨石3 磨石4	頁岩1		付属	
SK365	H	11-12-33	不明	落ち込み	不整形	344	204	49	○			○		○								付属	
SP966	H	12-33・34	不明	不明ビット	方形	47	31	14														付属	
SP967	H	11-34	不明	不明ビット	方形	40	24	17														付属	
SK368	H	10・11-33・34	不明	土坑	円形	108	102	21	○													付属	
SP969	H	10-34	不明	不明ビット	円形	40	34	37														付属	
SP970	D1	4-43	不明	不明ビット	円形	32	32	18	○													付属	
SP971	D1	4-44	不明	不明ビット	円形	34	32	18														付属	
SP972	D1	5-45	不明	不明ビット	円形	34	32	12														付属	
SP973	D1	4-46	不明	不明ビット	円形	36	32	16				○										付属	
SP974	D1	4-46	不明	不明ビット	円形	32	32	12														付属	
SP975	D1	4-48	不明	不明ビット	長円形	48	38	16														付属	
SP976	D1	4-48	不明	不明ビット	円形	20	20	13														付属	
SK377	D1	4-48	不明	土坑	円形	68	68	11														付属	
SP978	D1	4-48・49	不明	不明ビット	円形	42	36	14														付属	
SP979	D1	4-49	不明	不明ビット	円形	28	26	6														付属	
SP980	D1	4-49	不明	不明ビット	円形	40	38	32														付属	
SP981	D1	5-49	不明	不明ビット	長円形	48	36	19														付属	
SP982	D1	4-49	不明	不明ビット	長円形	40	28	34														付属	
SP983	D1	4-50	不明	不明ビット	円形	28	28	18														付属	
SP984	D1	4-50	不明	不明ビット	円形	28	24	16														付属	
SP985	D1	4・5-49・50	不明	不明ビット	円形	28	24	10														付属	
SP986	D1	5-49	不明	不明ビット	円形	40	40	48														付属	
SP987	D1	4・5-50	不明	不明ビット	円形	36	36	8														付属	
SP988	D1	5-49	不明	不明ビット	円形	48	40	21														付属	
SP989	D1	5-49	不明	不明ビット	円形	22	22	31														付属	
SP990	D1	5-49	不明	不明ビット	長円形	58	36	28														付属	
SK361	D1	5・6-49	不明	土坑	方形	102~	88	27														付属	
SP992	D1	5-49	不明	不明ビット	方形	42	24	16														付属	
SP993	D1	6-49	不明	不明ビット	円形	24	24	10														付属	
SP994	D1	5・6-49	不明	不明ビット	円形	48	46	44														付属	
SP995	D1	5・6-49・50	不明	不明ビット	長円形	62	44	35														付属	
SP996	D1	5・6-50	不明	不明ビット	円形	32	30	20														付属	
SK397	D1	6-49・50	不明	土坑	不明	82	38	13														付属	
SP998	D1	6-50	不明	不明ビット	長円形	72	44	36														付属	
SP999	D1	5-51	不明	不明ビット	円形	46	38	31				○										付属	
SP000	D1	5-50・51	不明	不明ビット	円形	42	38	41														付属	
SK001	D1	5・6-50・51	不明	不明ビット	円形	36	36	7														付属	
SK002	D1	4-50	縄文	不明ビット	円形	40	38	33														付属	
SK003	D1	5・6-53・54	縄文	不明ビット	円形	90	54	24					○	○	○	○						付属	
SP004	D1	5・6-54	不明	不明ビット	円形	32	28	16														付属	
SK005	D1	5・6-54・56	不明	土坑	不整形	188	152	20					○	○	○							付属	
SK406	H	12・13-32~34	現代	土坑	不整形	256	120	22	○										石皿1・磨石4	陶磁器		付属	
SP007	H	12・13-34	不明	不明ビット	長円形	40	28	27														付属	
SP008	H	12-34	不明	不明ビット	円形	-	-	-														位置不明	
SP009	H	12-34	不明	不明ビット	円形	-	-	-														位置不明	
SK410	H	12-34・35	現代	土坑	円形	60	44	21														付属	
SK411	J	14-14・15	不明	土坑	円形	80	76	26														付属	
SK412	J	12	不明	落ち込み	溝	316	110	28														付属	
SD413	J	12	不明	落ち込み	溝	396	170	32														付属	
SK414	J	12・13-11・12	近現代	土坑	方形	216	108	28												ビニール 磨石2・ 砥石1		付属	
SP415	J	11-14	不明	不明ビット	円形	66	44	36														付属	
SK416	J	13・14-9~11	現代	土坑		432	388	101												陶磁器・ 水筒通室 ビニール		付属	
SD417	J	13・14-8~11	中世	堀跡	溝		224	68														付属	
SK418	C2	2・3-33~35	前朝	土坑	円形	232	110	55				○										第5区	
SK419	G2	11-43・44	現代	土坑	円形	240	66	79												石皿2・ 磨石2・ 砥石1	陶磁器		付属
SM420	G2	11-43	現代	集石	円形	140	140	-												磨石3 磨石1・ 磨石3 磨石1・ 砥石		付属	

表9 遺構観察表(8)

遺構番号	地区	グリッド	時期	種別	平面形	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	深さ (cm)	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	石器・石製品	その他	備考	採回
SM421	C2	3-35	縄文	墓石	円形	136	136	—											磨石3・ 石籠1			第8回
SM422	C2	3-35	縄文	墓石	円形	64	64	—											○			第8回
SM423	C2	3・4-35	縄文	墓石	円形	64	64	—											○	磨石3		第8回
SK424	D2	5・6-40	近現代	土坑	土坑	180	144	73											○		海磁器	付回
SK425	D2	3・6-39・40	不明	落ち込み	不整形	632~	288	8	○	○									○			付回
SK426	D2	5-39	近現代	土坑	長円形	116	88	23											○		海磁器	付回
SK427	D2	4-39	縄文	ローママウンド	円形	200	168	54	○			○							○			付回
SP428	D2	4-38・39	不明	不明ビット	不整形	74	70	21											○			付回
SP429	D2	3-39・40	近現代	落ち込み	不明	—	—	—											○		位置不明	付回
SP430	D2	3-40	不明	落ち込み	方形	68	28~	16	○										○	石籠1		付回
SP431	D2	3-39	不明	不明ビット	円形	38	34	12											○			付回
SP432	D2	3-39	不明	不明ビット	不明	—	—	—				○							○	スタレイ バー1		位置不明
SP433	D2	3-39	不明	不明ビット	方形	42~	32	11											○			付回
SP434	D2	3-39	不明	不明ビット	円形	34	32	16											○			付回
SP435	D2	3-39	縄文	不明ビット	円形	34	16	13											○			長期以前
SP436	D2	3-39	不明	不明ビット	長円形	42	28	18											○			第5回
SK437	D2	3-38・39	後期	土坑	円形	102	82	51		○		○		○					○	スタレイ バー1・ 石籠1・ 凹石1		第5回
SP438	D2	3-36	不明	不明ビット	円形	34	32	9											○			付回
SK439	D2	3-36	縄文	柱穴?	円形	96	92	34		○	○	○							○			付回
SP440	D2	3-36	不明	落ち込み	不整形	38	16~	7											○			付回
SP441	D2	3-36	不明	柱穴	円形	48	42	16											○			付回
SP442	D2	4-36	不明	柱穴	円形	40	28	13											○			付回
SK443	D2	3-37	不明	土坑	不整形	50~	28~	64											○	石籠1		付回
SK444	D2	3-37	近現代	土坑	不整形	68~	58~	18											○		海磁器	付回
SP445	D2	3-37	不明	不明ビット	円形	36	34	13											○			付回
SK446	D2	3・4-37・38	不明	土坑	長円形	112	64	27	○										○			付回
EU447	D2	4-37	縄文	土坑	円形	96	54~	10											○			付回
SP448	D2	4-37・38	不明	不明ビット	長円形	30	20	15											○			付回
SK449	D2	4・5-37・38	不明	土坑	不整形	122	92	22	○			○							○			付回
SP450	D2	5-38	不明	不明ビット	円形	20	16	12											○			付回
SP451	D2	5-37	不明	不明ビット	円形	28	24	8											○			付回
SP452	D2	5-37	不明	不明ビット	円形	26	22	6											○			付回
SP453	D2	5-38	不明	柱穴	長円形	44	20	28	○										○			付回
SK454	D2	5・6-37	不明	土坑	長円形	98	56	5											○			付回
SP455	D2	5・6-37	不明	不明ビット	円形	48	48	26				○							○			付回
SK456	D2	5・6-37・38	近現代	土坑	不明	112~	72~	63											○			付回
SK457	D2	5・6-37~39	近現代	土坑	円形	232	160~	60	○	○									○			付回
SK458	D2	5・6-39	近現代	土坑	円形	88	86	22											○			付回
SP459	D2	5-38	不明	不明ビット	円形	36	32	21				○							○			付回
SP460	D2	3-40	不明	不明ビット	円形	46	40	11											○			付回
SP461	D2	3-40	不明	不明ビット	方形	34	14~	7											○			付回
SP462	D2	3・4-40	不明	不明ビット	方形	24~	24	4											○			付回
SP463	D2	4-39・40	不明	不明ビット	長円形	38	22	18											○			付回
SP464	D2	4-39	不明	不明ビット	長円形	—	—	—											○			付回
SK465	D2	3・4-39・40	不明	土坑	長円形	90	64	11											○			付回
SP466	D2	3-39	不明	不明ビット	円形	36	32	35											○			付回
SP467	D2	4-40	不明	柱跡?	円形	22	18	23											○			付回
SK468	D2	4・5-39・40	不明	土坑	長円形	94	72	34											○			付回
SP469	D2	不明	不明	不明ビット	不明	—	—	—											○			付回

※ 最大頂は方角に係らず、見かけの最大長で、最大幅はそれに直交する最大幅である。

※ “~”は切り合い等でそれ以上に範囲が広がるもの、“-”は計測不能を表す。

※ I~Ⅹは出土土器の分類である。

V 出土した遺物

今回の発掘調査で出土した遺物は、整理箱で93箱を数える。第Ⅲ章でも述べた通り、その大半は縄文土器及び縄文時代の石器類で占められ、その他中近世の石製品や近現代の陶磁器類などが出土している。以下、縄文時代を中心にその概要を述べる。

1 縄文土器(第9～20図 図版6～15)

出土遺物の大半を占める。時期は早期中葉から後期中葉まで幅広く出土している。小破片が多く、器形の判断できるものは少なかった。文様、胎土などから以下のように8群に大別し、それぞれ細分した。

- 第Ⅰ群・貝殻文や角押文を主体とするもので凡そ早期中葉に位置するもの
- 第Ⅱ群・結束のない羽状縄文が施文されるもので凡そ前期初頭に位置するもの
- 第Ⅲ群・半截竹管による沈線や押引文が施文されるもので凡そ前期中葉から後葉に位置するもの
- 第Ⅳ群・貼り付けによる隆線や沈線で渦巻文や曲線文が施文されるもので凡そ中期中葉に位置するもの
- 第Ⅴ群・隆帯や沈線でC字状文や楕円文が施文されるもので凡そ中期末葉に位置するもの
- 第Ⅵ群・鎖状隆線やボタン状貼りつけなどが施されるもの、あるいは沈線により曲線文や渦巻文などが施文されるもので凡そ後期初頭～前葉に位置するもの
- 第Ⅶ群・数条の沈線が横走するもの、あるいは磨消縄文により曲線文などが描出されるもので凡そ後期中葉に位置するもの
- 第Ⅷ群・上記の分類に含まれないもの、もしくは無文あるいは地文のみのもの

第Ⅰ群(第9・10図 図版6)

貝殻腹縁圧痕文や角押文を主体とするものを一括した。焼成は比較的良好で、にぶい褐色や黄橙色を呈するものが多い。胎土に、石英、雲母を含むのが普通で、一部繊維を含むものもある。a類～f類の6類に細分した。

a類(第9図1～12 図版6)：頸部でくびれ、口縁部が内湾しながら外傾する深鉢形を呈すると推定される。縦位あるいは斜位の貝殻腹縁圧痕が連続して横位に展開する。胎土には石英や雲母が含まれ、一部粗砂や細砂の目立つもの(2・5・6・8)もある。まれに繊維が混入する(7)。器厚は5～7mmを測る。焼成は比較的良好である。

b類(第9図13～15 図版6)：深鉢形を呈すると推定される。縦位の貝殻腹縁圧痕が連続して施文され、それに横走、斜走する半截竹管による平行沈線が加えられる。沈線間には刺突が加えられる。胎土には雲母が含まれ、石英や細砂の混入は目立たない。繊維を含むもの(14)もある。器厚は約5mmを測る。焼成は比較的良好である。

c類(第9図16～19 図版6)：内湾しながら立ち上がり、頸部でくびれ、口縁部が外湾しながら

ら立ち上がる深鉢形を呈するもの(16・17)、深鉢形を呈すると推定されるもの(18・19)がある。細かな貝殻縁圧痕が施文される。前者は頸部に隆線が横走り、隆線上部にも貝殻縁圧痕が加えられる。後者は隆線あるいは沈線に貝殻縁圧痕が伴う。胎土には雲母の他、石英や粗砂を含み(16・17・18)、繊維を微量に含むもの(19)もある。器厚は5～6mmを測る。焼成は良い。

d類(第9図20～24 図版6)：深鉢形を呈すると推定される。角押文が横走あるいは蛇行する。沈線が伴うもの(20・21)と貝殻縁圧痕が伴うもの(23・24)がある。(21)は格子目状沈線が施文される。胎土は雲母を含むもの(20～22)と含まないもの(23・24)とに分けられる。前者は器厚が8～9mmと比較的厚く、後者は5～6mmを測る。

e類(第10図25～28 図版6)：深鉢形を呈すると推定される。沈線が横走り、それに半截竹管文乃至角押文が伴う。胎土は粗砂の混入が目立つもの(25・26)と雲母や石英の混入が目立つもの(27・28)とに分け得る。前者は器厚が7mmと比較的厚い。後者は約5mmを測る。

f類(第10図29 図版6)：深鉢形を呈すると推定される。横走する沈線に垂下する沈線が伴う。焼成は比較的良好で、胎土に細砂や雲母を含む。内面に炭化物が付着する。器厚は6mmを測る。

第Ⅱ群(第10図30～38 図版7)

結束のない羽状縄文が施されるものを一括した。深鉢形を呈すると推定される。撚りの違う単節縄文を横位に施文している。胎土には繊維の他、雲母や石英の混入が目立つ。器厚は6～12mmを測る。

第Ⅲ群土器(第10図 図版8)

半截竹管による沈線や押し文が施されるものを一括した。2類に細分している。

a類(第10図39 図版8)：胴部が膨らみ頸部でくびれ、口縁部がやや外弯しながら外傾する深鉢形を呈する。頸部に半截竹管による沈線が3条横走する。地文は単節R Lだが、口縁部の一部に単節L Rの施文が見られる。焼成は比較的良好で胎土に粗砂を含む。内面はよく磨かれている。器厚は約11mmを測る。

b類(第10図40・41 図版8)：胴部が膨らみ、頸部でくびれ、口縁部が外傾するもの(40)と直線的に立ち上がり、波状口縁を呈するもの(41)がある。両者とも深鉢形を呈すると推定される。頸部に押し文が施される。胎土には若干の繊維を含む。器厚は約8mmを測る。

第Ⅳ群土器(第11・12図 図版7～10)

隆線や沈線で渦巻文や曲線文を描出したものを一括した。全体的に焼成は良好で、胎土に雲母や石英の混入が目立つ。5類に細分している。

a類(第11図42 第12図43～46 図版7・10)：胴部が直線的に立ち上がり、頸部で外弯しながら外傾し、口縁部が内弯する深鉢形を呈する。口縁部に無調整の貼り付けによる隆線で渦巻文や曲線文を描出している。口縁部と頸部は横走する隆線で画される。頸部には数本の沈線が横走する。焼成は良好で、内面は丁寧に磨かれている。胎土は雲母や石英の混入が見られるが全

体的に緻密である。器厚は7～12mmを測る。

b類(第12図47～51 図版7・10)：a類と同様の器形を呈すると推定される。口縁部に調整された貼り付けによる隆線で渦巻文などの文様を描出している。口縁部と頸部は横走する隆線により画され、頸部は無文となる。焼成は良好で、内面は丁寧に磨かれている。a類と比べ、胎土に砂の混入が目立つ。器厚は6～10mmを測る。

c類(第12図52～54 図版7)：深鉢形を呈すると推定される。小型である印象を受ける。沈線により曲線文を描出する。焼成は良好で、胎土に砂や雲母の混入が目立つ。器厚は6～8mmを測る。

d類(第12図55 図版10)：注口付浅鉢の注口部分である。断面が3角形の隆線により渦巻文を描出している。胎土には砂や雲母の混入が目立つ。器厚は約7mmを測る。

e類(第11図56 図版8)：底部資料である。網代痕がある。体部には垂下する沈線が施されたと推定される。(42)と同一個体の可能性がある。

第V群土器(第13図 図版10)

隆帯や沈線により、C字状文や楕円文を描出しているもの、あるいは口縁部や区画内に棒状工具による刺突を施すものを一括した。4類に細分している。

a類(第13図57・58 図版10)：胴部が膨らみ、頸部でくびれ、口縁部が内弯しながら外傾する深鉢形を呈すると推定される。隆帯により楕円文が描出される。焼成は良好で、内面は丁寧に磨かれている。胎土に砂、雲母、石英の混入が目立つ。器厚は約7mmを測る。

b類(第13図59～62 図版10)：深鉢形を呈すると推定される。沈線により円形文を描出し、沈線間を磨り消しているもの(59・60)と、区画内に刺突を加えているもの(61・62)がある。両者とも胎土に雲母、石英の混入が見られるが、後者には粗砂の混入が目立つ。器厚は7～10mmを測る。

c類(第13図63・64 図版10)：やや内弯する波状口縁を呈する。口縁部に棒状工具によるランダムな刺突を施している。胎土には粗砂の混入が目立つ。器厚は5～8mmを測る。

d類(第13図65・66 図版10)：口縁部がやや内弯する深鉢形を呈するもの(65)と頸部がくの字形に屈曲する浅鉢形を呈するもの(66)がある。口縁部を磨り消し、無文帯としている。後者は頸部に隆線が横走している。焼成は良好で、胎土に雲母や石英の混入が目立つ。器厚は9～10mmを測る。

第VI群土器(第13～16図 図版10～13)

隆線や沈線で文様を描出し、それらに刺突や貼り付けが伴うもの、あるいは口縁部が無文となり、体部に隆線、沈線、刺突等の施文がなされるものを一括した。14類に細分している。

a類(第13図67・68 図版10)：内弯しながら立ち上がり、口縁部がやや内側に屈曲する浅鉢形を呈するもの(67)と体部が膨らみ壺形を呈するもの(68)がある。前者は横走する隆線から2本1組の隆線が垂下し、交点には棒状工具による刺突が加えられる。後者は前者とほぼ同様だが、

横位の橋状取手がつく。胎土に砂、雲母、石英を含む。器厚は約8mmを測る。

b類(第13図69・70 図版11): 深鉢形を呈すると推定される。口縁部に竹管状工具による刺突が列点状に加えられる。(70)は波状口縁をなす。胎土に雲母、石英を含む。器厚は(69)が6.7mm、(70)は11.2mmと非常に厚い。

c類(第13図71~73 図版12): 深鉢形を呈すると推定される。鎖状隆線が垂下あるいは横走する。隆線の末端にボタン状貼り付けもしくは8の字状貼り付けを加えるもの(71・72)と、隆線で区画した内部に刺突を加えるもの(73)がある。胎土に粗砂の混入が目立つ。器厚は7~9.5mmを測る。

d類(第14図74~76 図版11): 体部が膨らみ、頸部でくびれ、口縁部がほぼ垂直に立ち上る深鉢形を呈する。口縁部が無文帯になり、頸部を刻み目を持つ隆線がめぐる。口縁部に8の字状の貼り付け文を施すもの(74)とC字状貼り付け文を施し、両端に刺突を加え、その間を沈線で連結するもの(75・76)がある。前者の胎土は微量に雲母を含む程度で非常に緻密である。後者は粗砂、雲母、石英を含む。前者の器厚は7~11mmを測る。後者は8~9mmを測る。

e類(第13図77・78 図版11): 体部がやや内湾し、口縁部がほぼ垂直に立ち上る深鉢形のもの(77)と頸部が屈曲し、口縁部が直線的に外傾する深鉢形のもの(78)がある。口縁部は無文で、頸部に1~2条の沈線が横走し、体部に沈線による蛇行文などが垂下する。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は8~12mmを測る。

f類(第15図79~81 図版11): 体部から口縁部までほぼ直線的に立ち上り、波状口縁をなす深鉢形を呈する。口縁をめぐって、2本1組の沈線がめぐり、波状口縁の頂部には指頭痕(79)あるいは円形浮文(81)が施される。体部には波状口縁の頂部から逆V字形に2本1組の沈線が垂下し、その間に点列が垂下するもの(79・81)と沈線が蛇行しながら垂下するもの(80)がある。後者にはさらに、釣鉤状の磨消縄文に蛇行しながら垂下する沈線が加わる。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は8~11mmを測る。

g類(第15図82・83 図版11): 器形は不明である。頸部に数条の沈線が横走し、体部には沈線による曲線文が描出される。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は7~8mmを測る。

h類(第15図84・85 図版11): 体部が膨らみ、頸部で内側に屈曲し、口縁部が内傾する深鉢形を呈する。口縁部が無文で頸部に沈線が横走する。体部には多重連弧文を施す。(84)は横走する沈線間に刺突が加えられ、また体部の多重連弧文の末端には刺突が加えられる。(85)は点列が幾何学的に配されるようだが詳細は不明である。(84)は胎土に粗砂、石英を含み、器厚が11mmと比較的厚手なのに対し、(85)は胎土に細砂、石英を若干含むが緻密で、器厚は5.4mmと薄手である。

i類(第15図86~92 図版12): 器形は不明である。壺形(89)が見られる。体部に沈線が横走あるいは垂下し、沈線間にハの字状の刺突が加えられる。胎土は一部に石英が微量に含まれるが、全体的に非常に緻密である。器厚は6~9mmを測る。

j類(第15図93~96 図版12): 器形は不明である。沈線により渦巻文が描出される。渦巻文には数条の沈線が伴う。胎土に細砂、雲母、石英を含む。器厚は3~10mmを測る。

k類(第15図97・98 図版12)：体部が膨らむ壺形を呈する。数条の平行沈線間に渦巻文が伴う。注口が付くものもある(98)。前者は胎土に細砂を含む。後者は粗砂、雲母を含む。器厚は5～7mmを測る。

l類(第14図99・100 図版12)：蓋である。棒状工具による刺突が施されるもの(99)と半截竹管状工具による刺突が施されるもの(100)がある。前者は(74)と同一個体の可能性がある。

m類(第15・16図101～111 図版13)：上記以外のものを一括した。沈線によりスベード文や曲線文等のモチーフが描出されるもの(101～106)、口径部に隆線が横走し、上面あるいは体部側に刺突の伴うもの(107・108)、細い沈線が横走、斜走するもの(109)、頸部でくの字形に屈曲し、口縁部が無文となるもの(110)、浅鉢形を呈し、口縁部に穿孔され、体部が無文となるもの(111)がある。

第Ⅶ群土器(第16図112～116 図版13)

磨消縄文や平行沈線を主体として文様を描出するものを一括した。3類に細分している。

a類(第16図112～114 図版13)：深鉢形を呈すると推定される。口縁部に平行沈線が横走する。沈線間が磨り消されるものもある(113)。胎土に細砂、雲母、石英を含む。器厚は約9mmを測る。

b類(第16図115 図版13)：器形は不明である。磨消縄文により、曲線文が描出される。胎土に粗砂、雲母、石英を含む。器厚は7mmを測る。

c類(第16図116 図版13)：体部が膨らみ、内湾しながら立ち上る浅鉢形を呈する。磨消縄文により、円形文、曲線文等の文様を描出される。胎土に細砂、雲母、石英を含む。器厚は7mmを測る。

第Ⅷ群土器(第16～20図 図版13～15)

無文あるいは地文のみのもの、もしくは上記の分類に含まれないものを一括した。

口縁部に隆線を貼り付けた後、縦位の刻み目を施しているもの(117)、沈線により文様を描出されるもの(120)などがある。また口唇部に捺糸圧痕が施されるもの(129)がある。その他は無文あるいは地文のみが施文されるものである。

2 土偶・土製品(第20図 図版15)

(135)は土偶の下半身である。共伴する遺物から大木8 a 式期に比定される。他の部位は出土しなかった。土偶はこの1点のみ出土している。

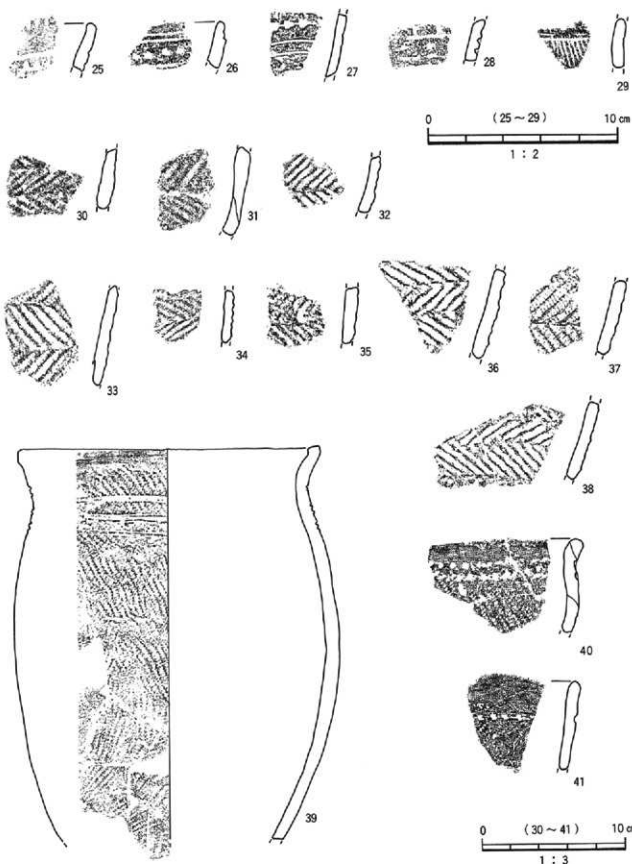
(136)は円盤状土製品である。円を2分するように縦線文が配される。時期は不明である。

3 その他の土器(第20図 図版26)

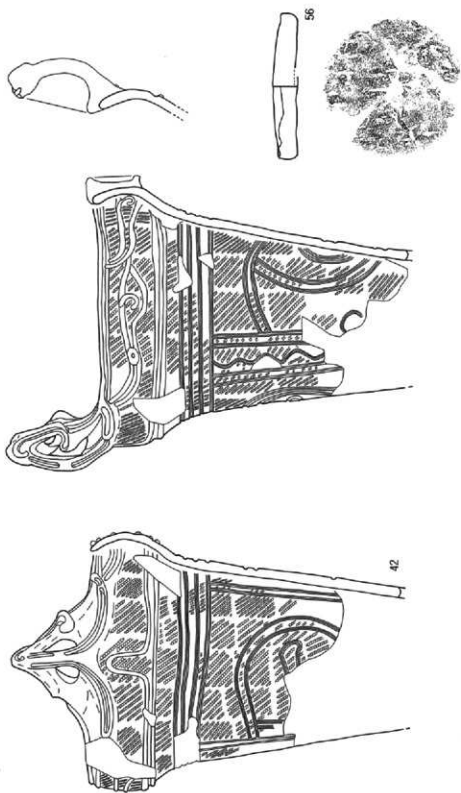
中近世の遺物としてとりべが1点出土している(137)。



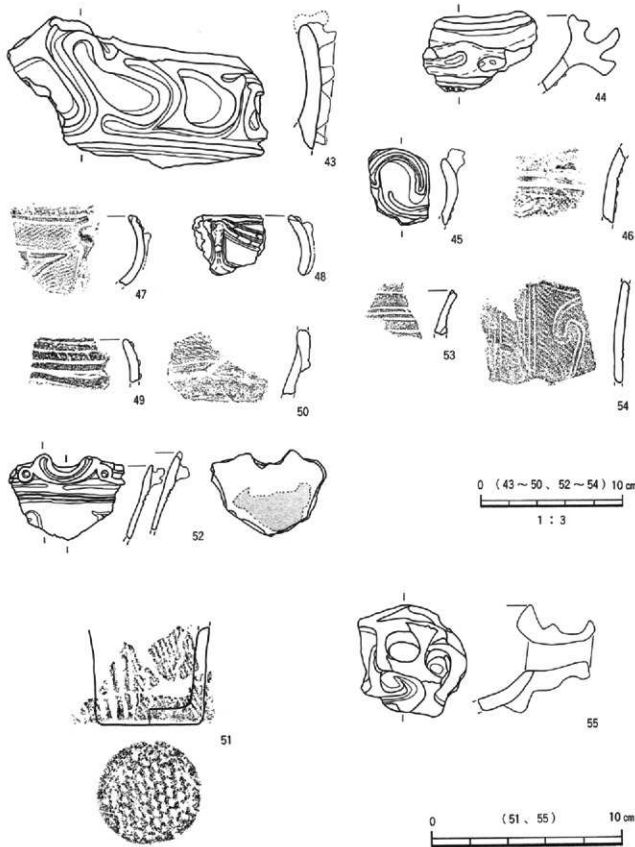
第9図 第I群土器(1)



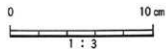
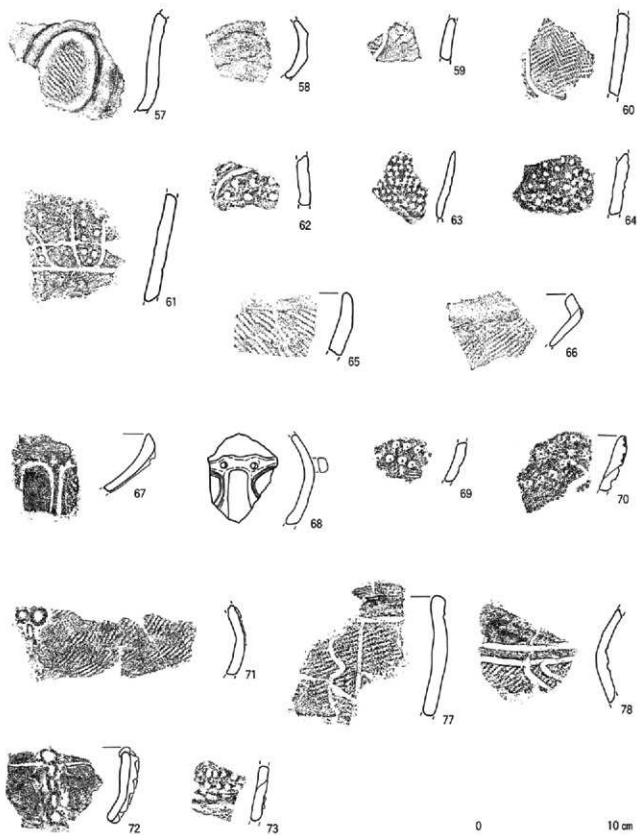
第10図 第I群土器(2)・第II群土器・第III群土器



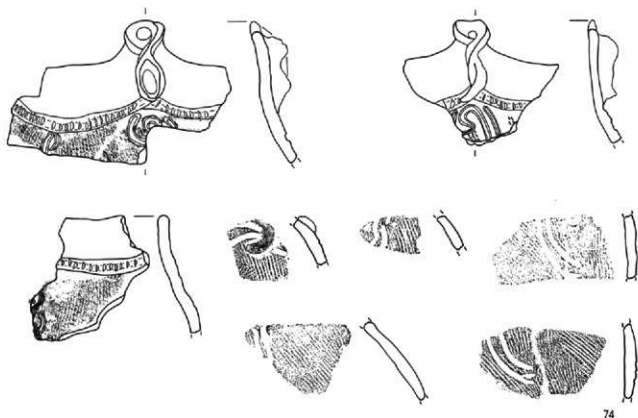
第11図 第IV群土器(1)



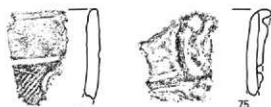
第12図 第IV群土器(2)



第13図 第V群土器・第VI群土器(1)

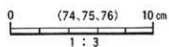


74

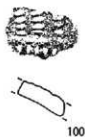


76

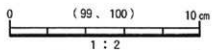
75



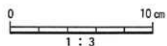
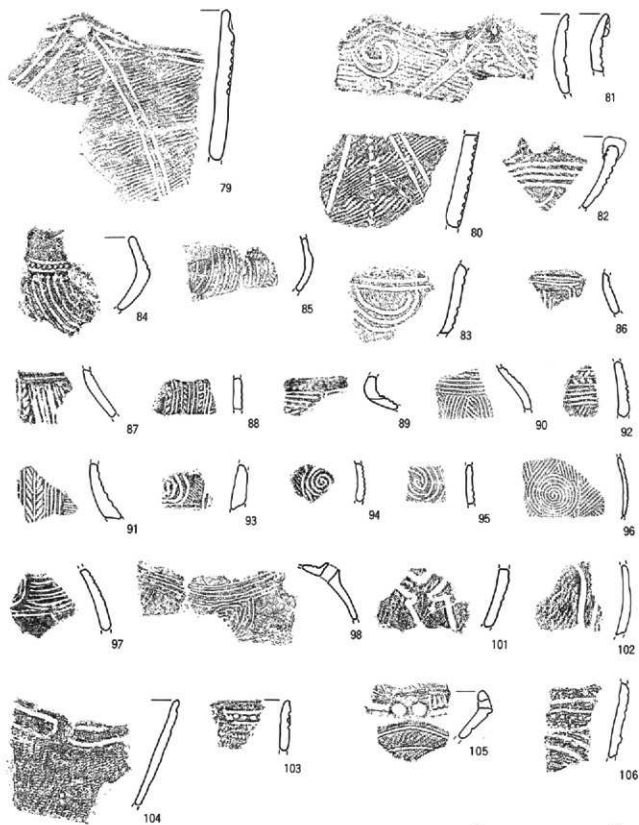
99



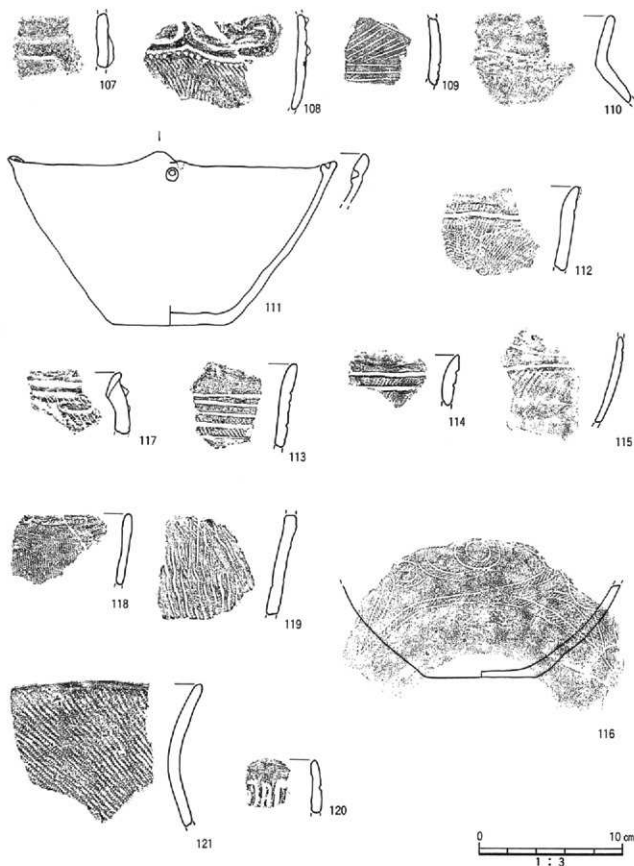
100



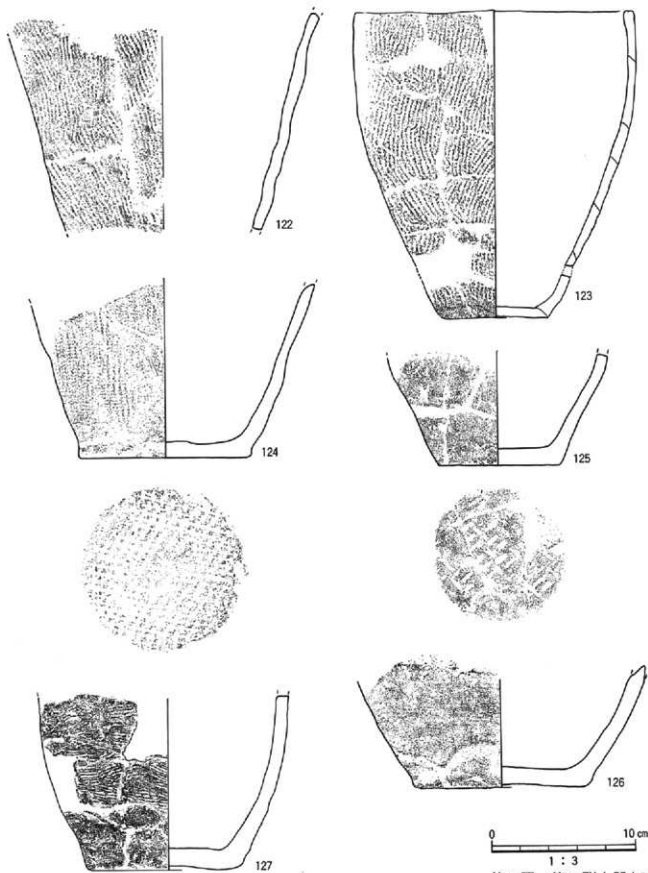
第14図 第VI群土器(2)



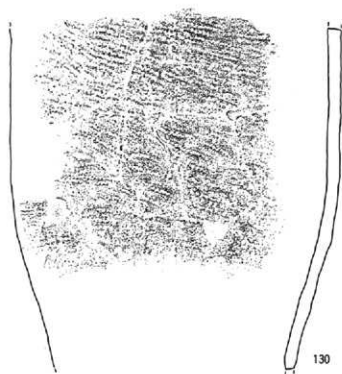
第15図 第VI群土器(3)



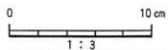
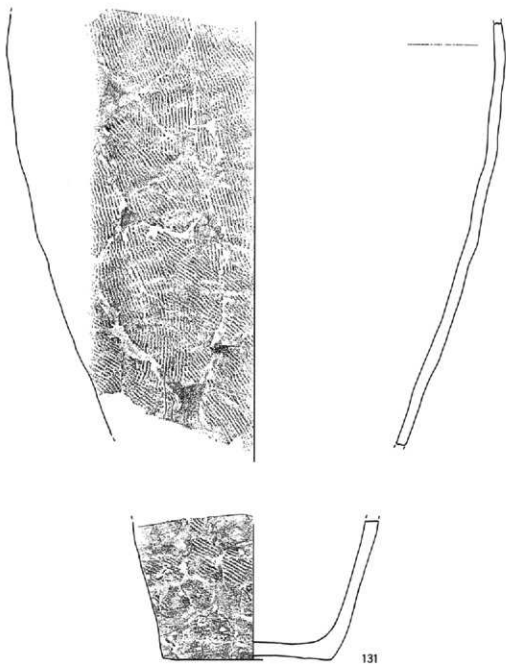
第16図 第VI群土器(4)・第VII群土器・VII群土器(1)



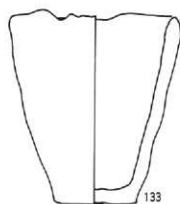
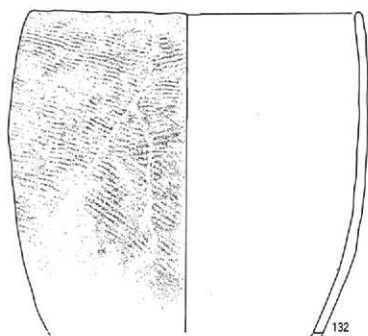
第17図 第Ⅷ群土器(2)



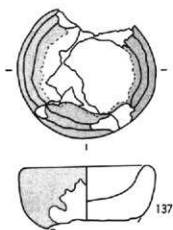
第18図 第Ⅶ群土器(3)



第19図 第Ⅷ群土器(4)



0 (132、133、134) 10 cm
1 : 3



0 (135、136、137) 10 cm
1 : 2

第20図 第Ⅷ群土器(5)・土偶・土製品・その他の土器

表10 縄文土器観察表(1)

No.	遺物番号	分類	形状	遺存状態	口径(mm)	胴径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	器厚(mm)	重量(g)	備文方向	文様等	特記事項	納戸	図説
1	SX341	Ia	深鉢形	口縁部					5.1	5.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
2	SK336	Ia	深鉢形	口縁部					6.0	6.0		具段縁部圧痕(肩位)	口縁部の可塑性があるが、 器底で不明		9	6
3	SK364	Ia	深鉢形	体部					6.9	7.3		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
4	SK354	Ia	深鉢形	体部					6.5	6.5		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
5	H区	Ia	深鉢形	体部					5.8	6.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
6	H区	Ia	深鉢形	体部					6.0	7.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
7	H区	Ia	深鉢形	体部					7.0	7.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
8	SX457	Ia	深鉢形	体部					6.0	6.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
9	SK352	Ia	深鉢形	体部					6.0	6.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
10	SX352	Ia	深鉢形	体部					6.0	6.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
11	SX425	Ia	深鉢形	体部					6.0	6.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
12	G1区	Ia	深鉢形	体部					6.0	6.0		具段縁部圧痕(肩位)			9	6
13	SX303	Ib	深鉢形	体部					5.3	5.0		平行弦線(平弦管) + 刺突(竹管状工具) + 具段縁部圧痕(肩位)			9	6
14	D2区	Ib	深鉢形	体部					5.0	5.0		平行弦線(平弦管) + 刺突(竹管状工具) + 具段縁部圧痕(肩位)			9	6
15	SX151	Ib	深鉢形	体部					5.0	5.0		具段縁部圧痕(肩位) + ハの字状 + 刺突(棒状工具)			9	6
16	C1区	Ic	深鉢形	口縁部					5.0	6.0		磨消 + 陰彫(上面に具段縁部圧痕)			9	6
17	C1区	Ic	深鉢形	口縁部					6.0	6.4		磨消 + 陰彫(上面に具段縁部圧痕)	炭化物(内外面)		9	6
18	SK356	Ic	深鉢形	体部					5.0	5.0		陰彫(胴部) + 具段縁部圧痕(肩位)	炭化物(内外面)		9	6
19	H区	Ic	深鉢形	体部					5.0	5.0		弦線 + 具段縁部圧痕(肩位)	炭化物(内外面)		9	6
20	H区	Ic	深鉢形	口縁部					9.0	8.0		糸弁文 + 刺突目			9	6
21	B2区	Ic	深鉢形	体部					8.0	8.0		弦線 + 糸弁文 + 帽子目状弦線			9	6
22	SK457	Ic	深鉢形	体部					8.0	8.0		糸弁文			9	6
23	SX458	Ic	深鉢形	体部					5.8	5.8		糸弁文 + 具段縁部圧痕(肩位)			9	6
24	SK1	Ic	深鉢形	体部					5.0	5.0		糸弁文 + 具段縁部圧痕			9	6
25	SK406	Ic	深鉢形	口縁部					7.0	7.0		糸弁文 + 刺突目 + 刺突(肉のある工具)			10	6
26	SK119	Ie	深鉢形	口縁部					7.0	7.0		平行弦線(平弦管) + 刺突(棒状工具)			10	6
27	SK51	Ie	深鉢形	体部					5.0	5.0		刺突(竹管状工具) + 平行弦線(平弦管)			10	6
28	SK256	Ie	深鉢形	体部					5.8	5.8		弦線 + 具段縁部圧痕(肩位) + 刺突(棒状工具)			10	6
29	SP44	If	深鉢形	体部					6.0	6.0		平行弦線(平弦管)	炭化物(内面)		10	6
30	SX341	II	深鉢形	体部					12.0	12.0	磨消R・L・ 上R				10	7
31	SX341	II	深鉢形	体部					10.0	10.0	磨消R・L・ 上R				10	7
32	SK344	II	深鉢形	体部					9.0	9.0	磨消R・L・ 上R				10	7
33	H区	II	深鉢形	体部					8.0	8.0	磨消R・L・ 上R				10	7
34	SX341	II	深鉢形	体部					6.0	6.0	磨消R・L・ 上R				10	7
35	SK355	II	深鉢形	体部					11.0	11.0	磨消R・L・ 上R				10	7
36	SP459	II	深鉢形	体部					11.0	11.0	磨消R・L・ 上R			炭化物(内面)	10	7
37	H区	II	深鉢形	体部					10.5	10.5	磨消R・L・ 上R + 糸弁文				10	7
38	SK4399F2	II	深鉢形	体部					9.0	9.0	磨消R・L・ 上R				10	7

表11 縄文土器観察表(2)

No	遺物番号	分類	器形	底径(mm)	口径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	器文	柄文方向	文様等	特記事項	時期	図版
39	SK418Y	Ⅲa	深鉢形 体部・ 口縁部・ 底面	257.0	221.0	256.0	(238.0)	10.7		肩上P (縦一線・肩 線)R.L	横 斜心	平行波線(手執竹管)	R P 21	10	8
40	SK276	Ⅲb	深鉢形 体部					8.3		単筋L.R	横	引文(手執竹管首端)	炭化物(内面)	10	8
41	SP293	Ⅲb	深鉢形? 口縁部・ 体部	(172.0)	(140.0)			8.0		単筋L.R	横	引文(棒状工具)		10	8
42	SK129F2	Ⅳa	深鉢形 体部・ 口縁部	195.0			(245.0)	7.0		単筋L.R	横	引文(棒状工具) 口縁部: 縁部(調整); S字状文)+ 貼付(ボナン状、若狭状)+厚部突起 筋部: 波線 体部 波線(調整文)	56と同一器体の可能なり R P 10	11	9
43	SK281F1	Ⅳa	深鉢形 口縁部					12.0		9.0単筋L.R	横	筋部(調整)	R P 15	12	10
44	SK98	Ⅳa	深鉢形 口縁部					9.0		単筋L.R	横	筋部(調整)	炭化物(内面)	12	7
45	SK341	Ⅳa	深鉢形 口縁部					10.0		単筋L.R	横	筋部(調整)	炭化物(内面)	12	7
46	SK341	Ⅳa	深鉢形 体部					9.0		単筋L.R	横	筋部(調整)		12	7
47	SK303	Ⅳb	深鉢形 口縁部					6.0		単筋L.R	横	筋部(調整); 波線文)		12	7
48	SK303	Ⅳb	深鉢形 口縁部					10.7		単筋L.R	横	筋部(調整); 波線文)		12	7
49	SK303	Ⅳb	深鉢形 口縁部					6.8		単筋L.R	横	筋部(調整); 波線文)		12	7
50	SK123	Ⅳb	深鉢形 口縁部					9.2		筋部L.R	斜め	筋部(調整)		12	7
51	SK123F3	Ⅳb	深鉢形 体部・底 面			54.0		6.7		単筋L.R	横	筋部(調整)+波線(底行) 底面調整 筋部	筋(内面) R P 14	12	10
52	H区	Ⅳc	深鉢形 口縁部・ 体部	(210.0)				6.0		単筋L.R	横	筋部(調整)	炭化物(内面)	12	7
53	SP127	Ⅳc	深鉢形 口縁部					7.0		単筋L.R	横	筋部(調整)	炭化物(内面)	12	7
54	SK123	Ⅳc	深鉢形 体部					7.6		単筋L.R	横	筋部(調整)	炭化物(内面)	12	7
55	SK427	Ⅳd	注口土器 口縁部					7.0					筋部(調整)三角形・調整文)	12	10
56	SK123F3	Ⅳe	深鉢形? 体部			106.0						波線 底面調整文)	130と同一器体の可能なり い、R P 7・8	11	8
57	SD184	Va	深鉢形 体部					9.0		単筋L.R	横	筋部(肩行)+筋部		13	10
58	SK362	Va	不明 体部					7.0		筋部L.R	横	筋部(調整)		13	10
59	SP360	Vb	不明 体部					7.4		筋部L.R	横	筋部(調整)		13	10
60	SK123F1	Vb	深鉢形 体部					10.0		単筋L.R	横	筋部(調整)		13	10
61	SK123F1	Vb	深鉢形 体部					10.0				筋部(C字状)+引文(棒状工具; 区 別)内充調+筋部		13	10
62	SK405	Vb	不明 体部					10.0				筋部(調整)体部		13	10
63	SP468	Vc	深鉢形 口縁部					8.6				筋部(調整)体部		13	10
64	SD184	Vc	不明 口縁部					5.0				筋部(調整)体部		13	10
65	B2区	Vd	深鉢形 口縁部					10.0		単筋L.R	横	筋部	炭化物(内面)	13	10
66	SK1	Vd	深鉢形 口縁部					9.0		単筋L.R	斜め	筋部(調整)	炭化物(内面)	13	10
67	SK1	Vd	深鉢形 口縁部					7.8		単筋L.R	横	筋部(調整); 文点(肩行)+筋部	炭化物(口内面)	13	10
68	SK355	Va	深鉢形 体部					8.0		単筋L.R	横	筋部(調整); 文点(肩行)+筋部	炭化物(口内面)	13	10
69	SK123F1	Vb	深鉢形 体部					6.7		単筋L.R	斜め	筋部(調整)体部		13	10
70	SK341	Vb	深鉢形 口縁部					11.2				筋部(調整)体部		13	10
71	SK238	Vc	深鉢形 体部					7.0		筋部L.R	横	筋部(調整); 筋部(調整)+筋部(調整)	炭化物(内面)	13	12

表12 縄文土器観察表(3)

No.	遺物番号	名称	器形	遺存状態	口径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	高さ(mm)	器厚(mm)	素文	素文方向	文様等	特記事項	編年	図説
72	C 1区	Wc	不明										炭化(内・口縁部外周)	13	12
73	SX3.6.5	Wc	深鉢形 体部						8.0			化腐(内周)・調整・環状(口縁部外周)	炭化(内・口縁部外周)	13	12
74	SX3.4.1	Wd	深鉢形 口縁部・体部	(138.0)					9.5	星形凹線文	縦 斜め	調整・調整・調整(内)・調整・調整(調整)	炭化(外周)	13	11
75	SX3.5.5	Wd	深鉢形 口縁部						7.8-11.0	熟赤R		調整・調整(調整)	炭化(外周)	14	11
76	SX1.9.5	Wd	深鉢形 口縁部 体部						8.0			調整・調整(調整)	炭化(外周)	14	12
77	SX1.6.6	Wc	深鉢形 口縁部・体部						9.0	単節LR	横	調整・調整(調整)	炭化(外周)	13	11
78	SX3.5.1	Wc	深鉢形 体部						12.0	単節LR	横	調整・調整	炭化(内周)	13	11
79	C 1区	Wf	深鉢形 口縁部・体部	(270.0)					8.6	単節LR	横	調整・調整(調整)	炭化(内周)	13	11
80	SX3.4.1	Wf	深鉢形 体部						9.5	単節LR	斜め	調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	11
81	1区	Wf	深鉢形 口縁部	(200.0)					11.0	単節LR	斜め	調整・調整	炭化(外周)	15	11
82	SX4.0.3	Wg	深鉢形? 口縁部						8.3	単節LR	斜め	調整・調整(調整)	炭化(外周)	15	11
83	SX1.4.9	Wg	不明 体部						8.0	単節凹線文(上L字)	斜め	調整・調整(調整)	炭化(外周)	15	11
84	SX1.6.7	Wb	深鉢形 口縁部						7.6	凹線文	斜め	調整	炭化(外周)	15	11
85	4区	Wb	不明 体部						11.0			調整	炭化(内周)	15	11
86	SX3.4.1	Wl	深鉢形? 体部						5.4			調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	11
87	SX3.4.1	Wl	深鉢形? 体部						6.0	単節LR	斜め	調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
88	B 2区	Wl	不明 体部						7.0			調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
89	A区	Wl	壺形 体部						7.0			調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
90	SX4.0.5	Wl	不明 体部						7.3			調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
91	SX3.4.1	Wl	不明 体部						6.5	単節LR	縦	調整	炭化(内周)	15	12
92	SX3.4.1	Wl	不明 体部						8.6	凹線文(上L字)	斜め	調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
93	SX3.4.1	Wl	不明 体部						7.7			調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
94	SF2.6.6	Wl	不明 体部						7.7			調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
95	SF2.6.6	Wl	不明 体部						10.5	単節LR	縦	調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
96	SF1.8.4	Wl	不明 体部						6.0	単節凹線文	斜め	調整	炭化(内周)	15	12
97	SF1.8.4	Wl	不明 体部						5.0			調整	炭化(内周)	15	12
98	SX3.4.1	Wk	壺形 体部						4.0	単節LR	斜め	調整	炭化(内周)	15	12
99	SX3.4.1	Wk	注口蓋 体部						5.0			調整	炭化(内周)	15	12
100	C 1区	Wl	壺形? 体部	(175.0)					8.0			調整	炭化(外周)	15	12
101	SX3.5.5	Wm	深鉢形 体部						8.8			調整・調整(調整)	炭化(内周)	14	12
102	SX1.6.6	Wm	深鉢形 体部						7.3	単節LR	斜め	調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	12
103	SX3.4.1	Wm	深鉢形 口縁部						7.1	単節LR	斜め	調整・調整(調整)	炭化(内周)	15	13
104	SX4.3.7.F4	Wm	深鉢形 口縁部 体部						6.2	単節LR	斜め	調整	炭化(内周)	15	13
105	SX2.9.9	Wm	深鉢形 口縁部						7.7	単節LR	斜め	調整	炭化(内周)	15	13
106	SP1.2.9	Wm	不明 体部						6.5	単節凹線文	横	調整・調整(調整)	炭化(外周)	15	13
107	D 1区	Wm	深鉢形 体部						10.0	単節凹線文	横	調整(調整)	炭化(内周)	16	13
108	SX1.5.1	Wm	深鉢形 口縁部						7.0	凹線文(上L字)	横 斜め	調整・調整(調整)	炭化(外周)	16	13

表13 縄文土器観察表(4)

No.	遺物番号	分類	器形	器形 不明	器形 不明	口径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	施文方向	施文等	特記事項	層位	調査 年度	
130	S.K.4.0.5	Ⅷm	酒鉢形	不明	酒鉢形					8.0	縦	沈線	炭化物(内面)		16	13
110	S.K.3.5.1	Ⅷm	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.0	斜め	磨削(口縁部)			16	13
131	S.P.3.6.3	Ⅷm	酒鉢形	不明	酒鉢形	254.0			136.0	6.0	縦	磨削(口縁部)			16	13
112	S.K.4.0.3	Ⅷa	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.0	斜め	磨削(口縁部)			16	13
113	D.1.1区	Ⅷa	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.0	縦	沈線			16	13
114	D.1.1区	Ⅷa	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.3	縦	沈線			16	13
115	S.K.3.5.5	Ⅷb	酒鉢形	不明	酒鉢形					7.0	縦	磨削	炭化物(外内面) 赤褐色(内面)		16	13
116	S.X.3.9.F.1	Ⅷc	酒鉢形	不明	酒鉢形					7.0	縦	磨削	赤褐色(内面) 赤褐色(内面)		16	13
117	S.K.4.3.9.F.1	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					11.1	縦	磨削	赤褐色(内面) 赤褐色(内面)		16	13
118	S.K.3.5.5	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					6.0	縦	磨削	炭化物(外内面)		16	13
119	G.1区	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.1	縦	磨削	炭化物(外内面)		16	13
120	C.1区	Ⅷ	不明	不明	不明					8.0	縦	磨削	炭化物(外内面)		16	13
121	S.P.9.1	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形	(310.0)				9.0	縦	磨削	炭化物(外内面)		16	13
122	S.X.3.0.3	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.3	斜め	磨削	炭化物(外内面)		17	13
123	E.U.1.8.7	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					82.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		17	14
124	S.K.1.4.4	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					132.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		17	14
125	H.1区	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					110.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		17	14
126	S.P.3.3.8	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					134.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		17	15
127	S.K.4.0.3	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					133.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		17	14
128	D.2区	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					259.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		18	15
129	S.K.3.2.0	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					9.4	斜め	磨削	炭化物(外内面)		18	14
130	S.K.1.2.3	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					10.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		18	15
131	E.U.4.4.7	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					134.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		19	14
132	D.2区	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					282.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		20	15
133	S.X.1.3.1.F.1	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					65.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		20	15
134	E.U.2.6.1	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					5.5	斜め	磨削	炭化物(外内面)		20	15
135	S.X.3.0.3	Ⅷ	土器	不明	土器					21.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		20	15
136	S.K.3.5.6	Ⅷ	土器	不明	土器					10.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		20	15

表14 土器観察表

No.	遺物番号	分類	器形	器形 不明	口径(mm)	胴径(mm)	底径(mm)	器高(mm)	器厚(mm)	施文方向	施文等	特記事項	層位	調査 年度		
137	S.K.3.5.0	Ⅷ	酒鉢形	不明	酒鉢形					72.0	斜め	磨削	炭化物(外内面)		20	25

4 打製石器(第21・22図 図版16~18)

出土遺物の大半は、剥片で占められ、製品として認められるのは微量である。そのうち、30点を実測、図化した。また、遺構に伴って出土したのもも少なかったことから、特に細分はしていない。

i) 石錐(第21図138 図版16)

1点出土している。基部の片側が張り出し、左右非対称となる。基部との間にノッチが入り、尖頭部が明瞭に区別される。調整は尖頭部両側縁に限られる。

ii) 尖頭器(第21図139 図版16)

1点出土している。背面側全体に調整加工が施され、主要剥離面右側縁及び下端両側縁に調整が見られる。断面形が彎曲する。

iii) 石匙(第21図140・141 図版16)

2点出土している。調整は側縁に限られる。背面全周にわたって加工が施されるもの(140)と、抓み上部に自然面を残し、調整加工があまり顕著でないもの(141)がある。

iv) 石篋(第21図142~146 図版16)

7点出土している。その内、5点実測・図化した。(144)は上部がやや括れている。(146)は下部に自然面を残している。片面あるいは両面に素材面を残すもの(142・143・146)と両面に加工が施されるもの(144・155)

v) スクレイパー(第22・23図147~166 図版17・18)

側縁あるいは、末端に加工が認められるもので上記に該当しないものを一括した。また欠損により加工部位が判然としないものもこれに含まれる。20点出土している。

vi) 石核(第23図167 図版19)

4点出土している。その内、1点実測・図化した。

5 磨製石器・礫石器

49点を実測・図化した。礫石器の一部は縄文時代の集石遺構あるいは、近現代の遺構の構築に転用されている。以下、その概要を述べる。

i) 磨製石斧(第24図168~171 図版19)

4点出土している。いずれも、欠損が見られる。両側縁に研磨が認められるもの(168・169)、両側縁の研磨は認められないもの(170・171)がある。

ii) 磨石(第24~30図 図版20~23)

磨面の部位、範囲から3群に大別し、それぞれ細分した。

I群(第24・25図172~175 図版19~21)

おおよそ円形で、全体を磨っているものを一括した。(174)は加工があまり顕著ではない。(175)は(116)の蓋石として使用されていた。

II群(第26~29図 図版21・22)

おおよそ円形で、ある面を局部的あるいは全体的に磨っているものを一括した。4類に細分している。

- a 類(第26図176~180 図版21):片側表面を全体的に磨っているもの
 - b 類(第27図181~183 図版21):片側表面を局部的に磨っているもの
 - c 類(第27図184 図版21):両側表面を全体的に磨っているもの
 - d 類(第28・29図185・186 図版22):片側表面及び側面を磨っているもの
- Ⅲ群(第30図 図版23)

断面が3角形で、その稜に磨り面を持つものを一括した。2類に細分している。

- a 類(第30図187~191 図版23):一辺だけを磨るもの
- b 類(第30図192 図版23):二辺を磨るもの
- ii)凹石(第31~33図 図版23・24)

平面形の違いにより2群に大別し、それぞれ細分している。

I 群(第31~33図 図版23)

平面形が円形を呈するものを一括した。2類に細分している。

- a 類(第31図193~196 図版23):片面にくぼみを持つもの
- b 類(第31~33図197~205 図版23):両面にくぼみを持つもの

II 群(第33図 図版23)

平面形が楕円形を呈するものを一括した。I類と同様に細分している。

- a 類:出土していない。
- b 類(第33図206~208 図版23):両面にくぼみを持つもの
- iv)石皿(第34・35図209~212 図版24・25)

点出土している。4点を実測・図化した。2群に大別している。I群の出土は図化した2点のみで、他はすべてII群である。

I 群(第34図206・207 図版24)

縁のあるものを一括した。多孔質の礫を使用している。底面は緩やかな曲線をなす。

II 群(第35図208・209 図版25)

縁のないものを一括した。板状を呈する自然礫の平滑な面を使用している。

v)石棒(第36図213・214 図版25)

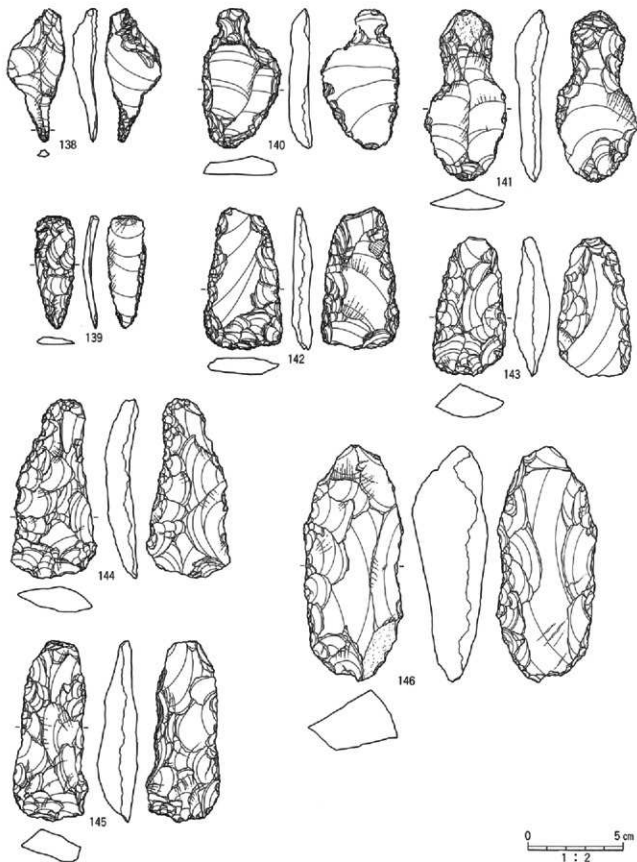
2点出土している。断面形が隅丸方形で下端には敲打痕が認められるもの(213)と断面形が円形で上端、下端とも欠損が見られるもの(214)がある。後者はS X167の構築部材として転用されていた。

vi)石製裝飾品(第36図215 図版26)

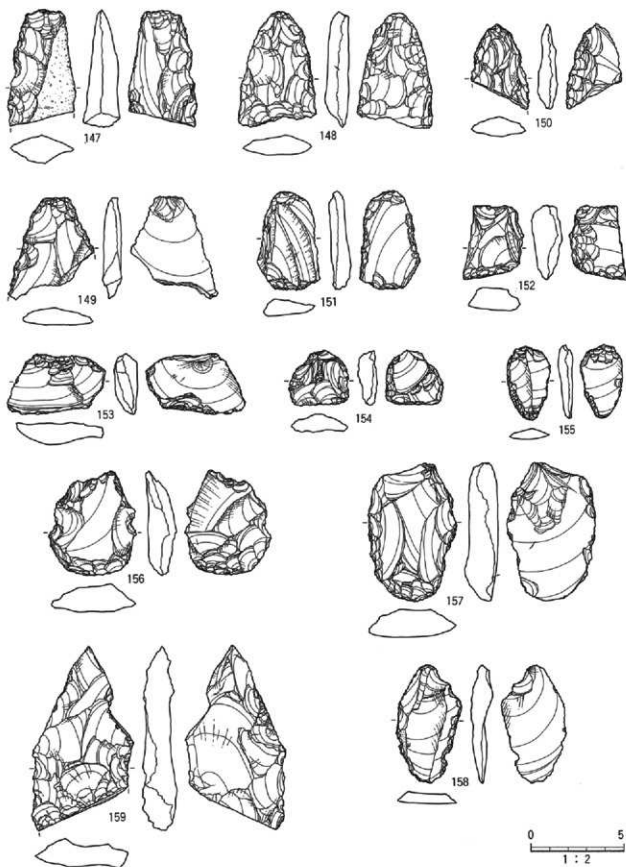
1点出土している。中央部に両面から穿孔を施している。

vii)円盤状石製品(第36図216・217 図版26)

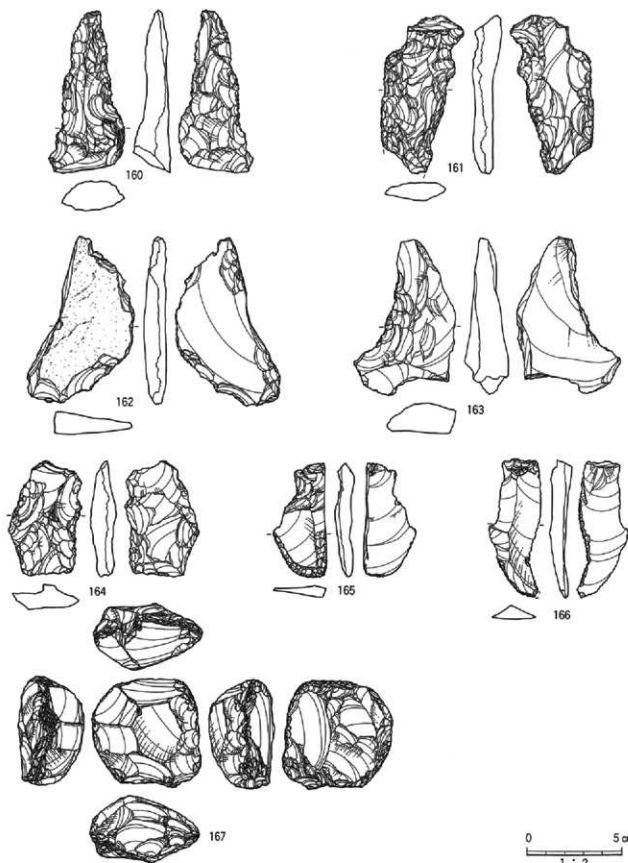
2点出土している。両面を平滑に研磨している。側面は自然面のままである。軟質で非常に軽い。



第21図 打製石器(1)



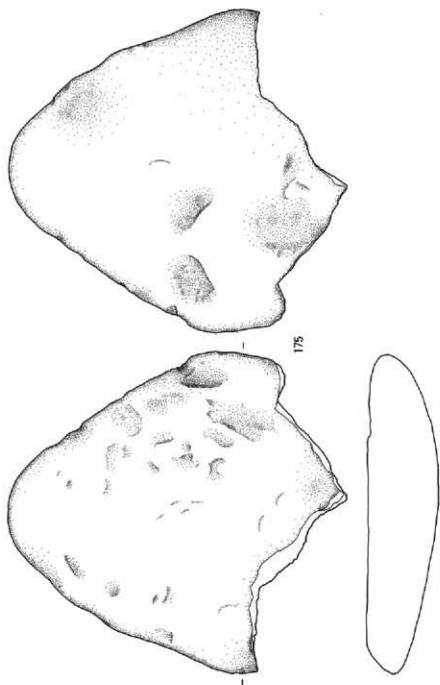
第22図 打製石器(2)



第23図 打製石器(3)



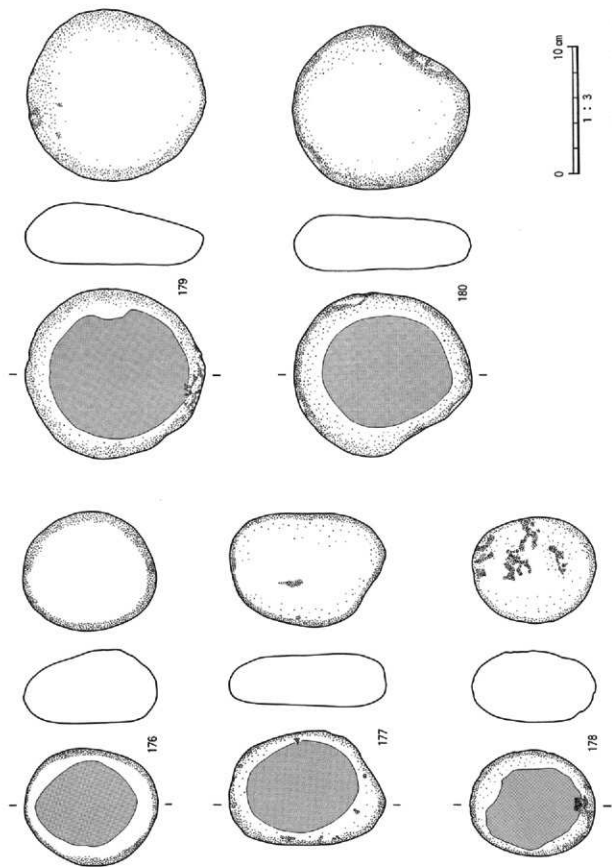
第24図 磨製石斧・磨石(1)

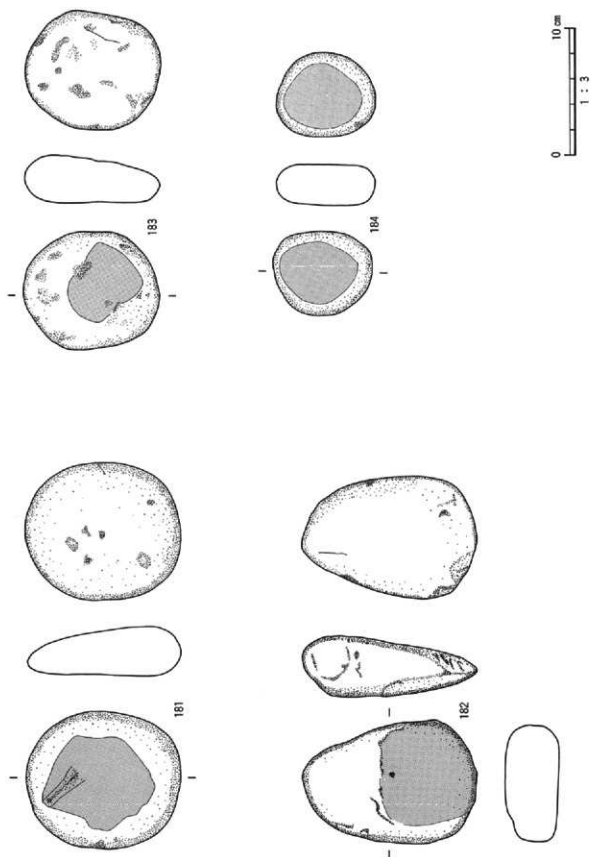


0 10 cm
1 : 4

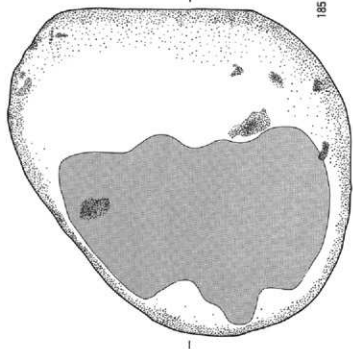
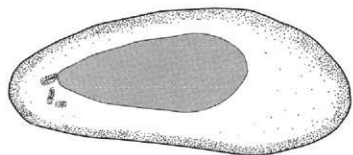
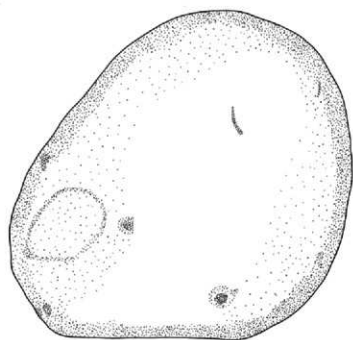
第25図 磨石(2)

第26図 磨石(3)

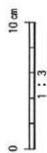




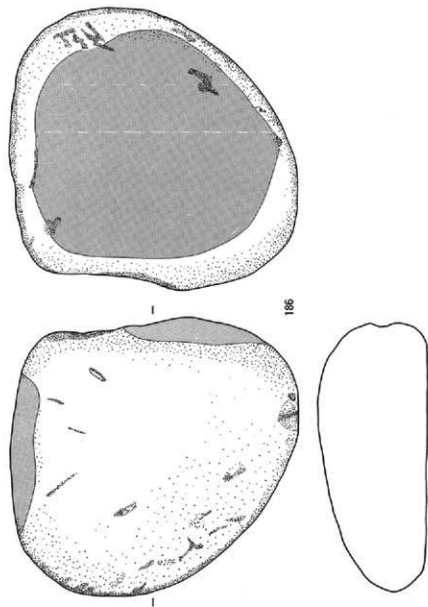
第27図 磨石(4)



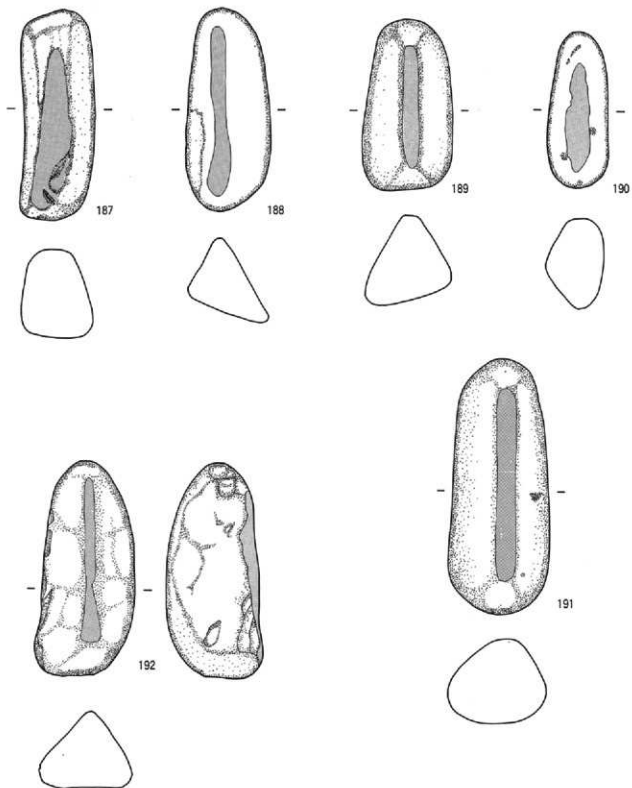
185



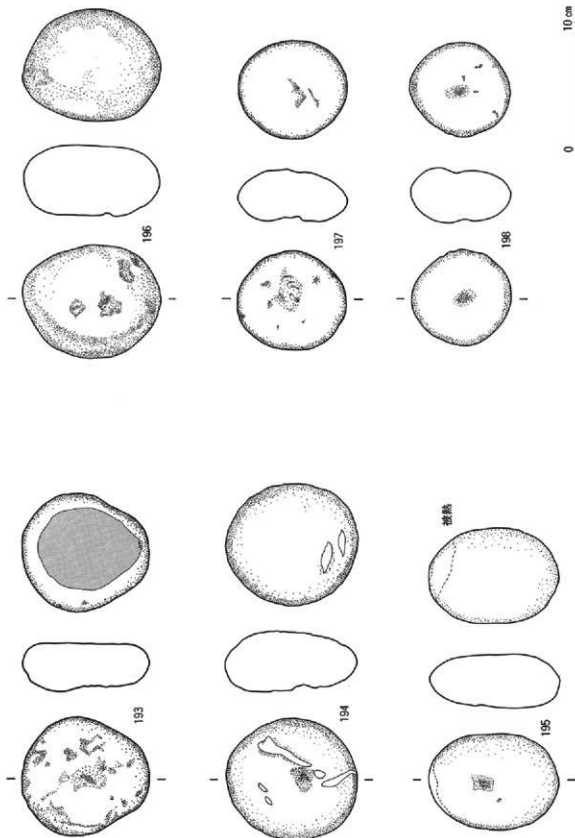
第28図 磨石(5)



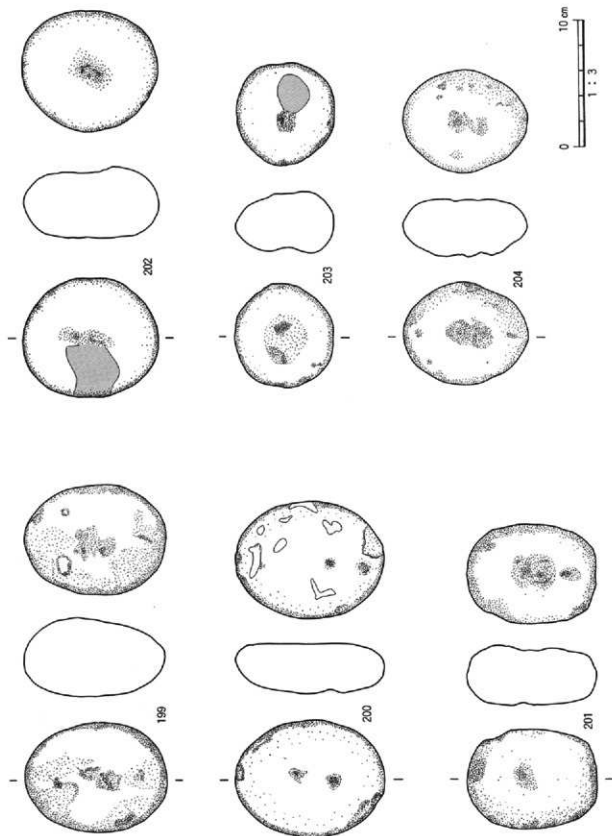
第29図 磨石(6)



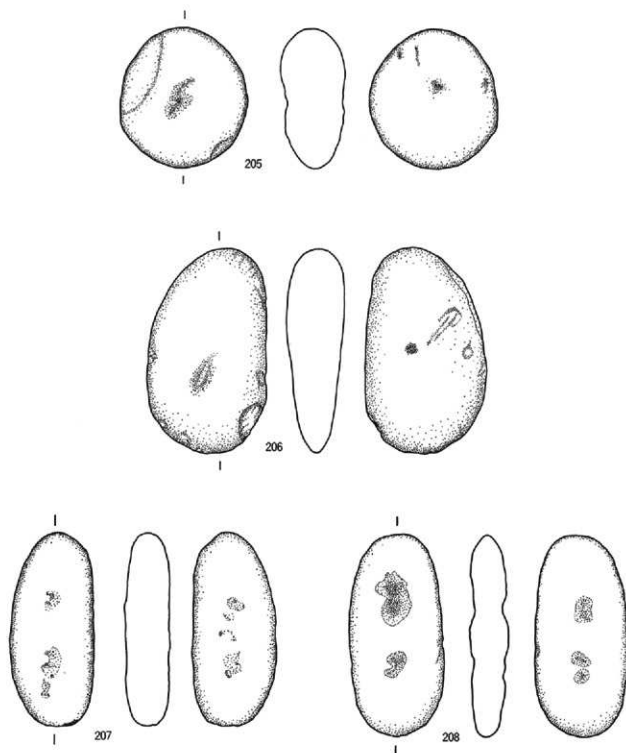
第30図 磨石(7)



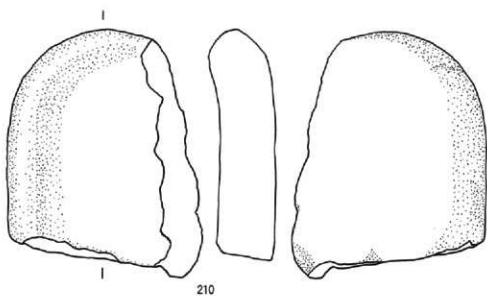
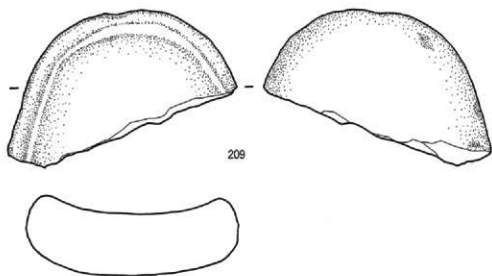
第31図 凹石(1)



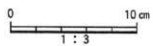
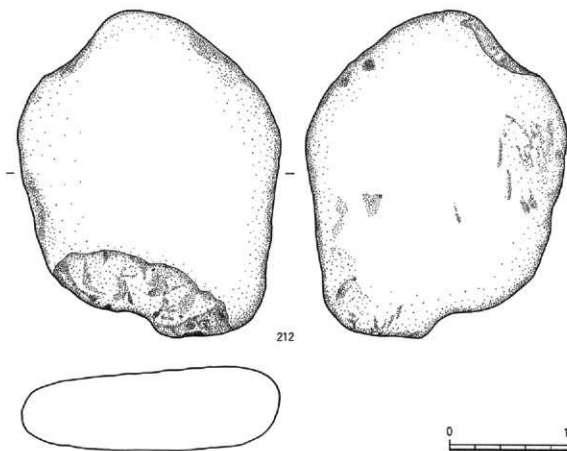
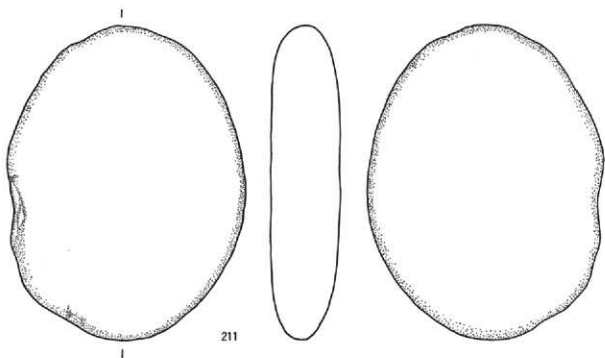
第32図 凹石(2)



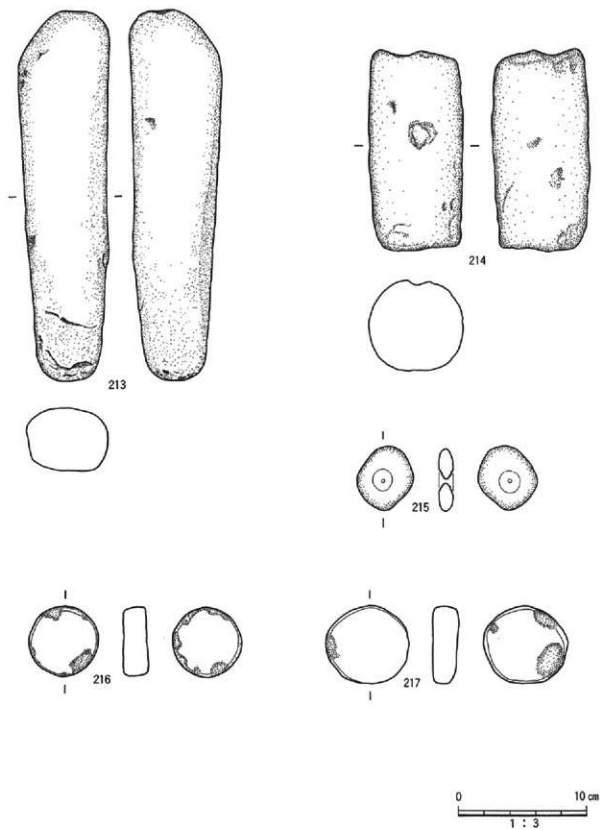
第33図 凹石(3)



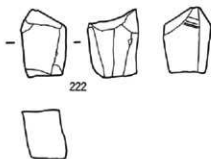
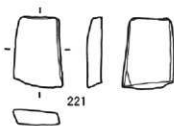
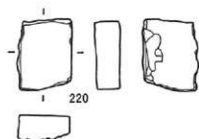
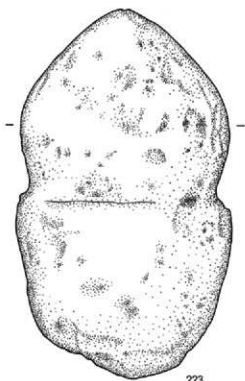
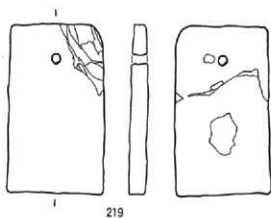
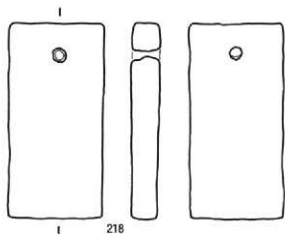
第34図 石皿(1)



第35図 石皿(2)



第36図 石棒・石製裝飾品・円盤状石製品



第37図 温石・砥石・五輪塔風空輪

6 中世以降の石製品(第37図 図版26)

詳細な時期は不明であるが、おおよそ中世から近世に位置すると推定される石製品を実測・図化した。

i) 温石(第37図218・219 図版26)

2点出土している。全体を平滑に研磨し、上部に穿孔をもつ。穿孔は両面から加工していることが観取される。

ii) 砥石(第37図220~222 図版26)

3点出土している。1面を使用したもの(220)、2面を使用したもの(221)、3面使用したものの(223)がある。

iii) 五輪塔(第37図223 図版26)

風空輪部が1点出土している。表面の風化が激しい。

表15 打製石器計測表

No	遺物番号	地区	器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存部位	特記事項	標図	図版
138	S P 231	B 3	石鏃	頁岩	70.6	29.1	12.6	15.9				21 16
139	S K 119	B 2	矢鏃鏃	頁岩	59.0	30.7	4.7	5.4				21 16
140	S K 281	B 3	石鏃	頁岩	73.8	4.1	10.2	34.0				21 16
141		B 2	石鏃?	頁岩	90.4	42.8	16.7	44.4		つまみ上部に自然面残す。		21 16
142		H	石鏃	頁岩	76.5	40.9	9.7	31.7				21 16
143	S X 303	C 2	石鏃	頁岩	73.5	48.6	18.6	44.1		中期?		21 16
144	S X 341	H	石鏃	頁岩	95.4	44.6	13.4	51.9		上部くびれを持つ。		21 16
145	S K 419	G 2	石鏃	頁岩	95.0	39.1	19.5	64.1				21 16
146	S K 419	G 3	石鏃	頁岩	124.7	53.9	37.0	238.8		未製品?下部に自然面を残す。		21 16
147		H	スクレイパー	頁岩	(62.3)	(35.9)	(18.4)	31.9	先端欠損			22 17
148	S X 341	H	スクレイパー	頁岩	61.1	41.1	11.6	30.0				22 17
149	S X 303	C 2	スクレイパー	頁岩	(56.5)	(47.9)	(8.7)	19.1	下半部欠損	中期?		22 17
150	S D 184	H	スクレイパー	頁岩	(44.9)	(29.0)	(10.5)	9.7	下半部欠損			22 17
151	S X 364	H	スクレイパー	頁岩	51.7	32.2	9.3	15.2				22 17
152	S P 432	D 2	スクレイパー	頁岩	39.8	34.4	15.8	20.0		再加工?		22 17
153		X・O	スクレイパー	頁岩	31.4	50.3	11.7	20.0				22 17
154	S P 437	D 2	スクレイパー	頁岩	28.6	30.6	9.9	7.7				22 17
155	S K 19	A	スクレイパー	頁岩	38.6	22.9	7.8	5.8				22 17
156	S K 306	C 2	スクレイパー	頁岩	57.8	46.0	15.5	36.6				22 17
157	S K 356	H	スクレイパー	頁岩	73.4	47.4	18.4	64.2				22 17
158	S X 341	H	スクレイパー	頁岩	62.3	35.3	7.7	14.2				22 17
159	S K 351	H	スクレイパー	頁岩	99.6	52.5	18.0	71.9		下半部欠損		23 18
160	S X 341	H	スクレイパー	頁岩	86.8	40.4	19.1	43.4				23 18
161	S X 186	H	スクレイパー	頁岩	84.3	38.7	14.6	42.8		先端部欠損		23 18
162	S X 355	H	スクレイパー	頁岩	87.1	58.4	10.9	50.7		上部にくびれを持つ。		23 18
163	S K 123 F3	B 2	スクレイパー	頁岩	80.6	54.8	18.6	63.9		表面自然面		23 18
164	S P 343	H	スクレイパー	頁岩	60.8	37.7	12.2	25.5		表面自然面		23 18
165	S X 364	H	スクレイパー	頁岩	59.3	27.5	8.2	10.8		中期中葉		23 18
166		H	スクレイパー	頁岩	(71.8)	(28.2)	(8.6)	13.2	先端部欠損			23 18
167	S K 430	D 2	石核	頁岩	57.9	56.6	36.3	121.0				23 19

※ 長さ、幅、厚さともに見かけの値である。

表16 磨製・礫石器観察表

No	遺物番号	地区	器種	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	残存部位	特記事項	RQ番号	検出	図版
168	S K 166	I	磨製石斧		198.0	75.0	37.0	580.0	表面左側欠損	黒色付着物 蛇紋岩製	17	24	19
169	S X 362	H	磨製石斧		60.0	53.0	27.0	160.0	上部・下部欠損				24 19
170	S M420	C 2	磨製石斧		55.0	48.0	29.0	100.0	上部・下部欠損	未製品?			24 19
171	S X 341	H	磨製石斧		68.5	25.0	23.5	40.0	上半部・左半欠損				24 19
172	S X 288	G 2	礫石	I	110.0	60.0	26.0	260.0					24 19
173	S X 158	I	礫石	I	139.0	88.0	43.0	730.0					24 21
174	S M421	C 2	礫石	I	67.0	52.0	23.5	120.0					24 21
175	S X 339	C2	礫石	I	357.0	338.0	75.0	10980.0		RP22礫石			25 20
176	S X 351	H	礫石	II a	106.0	93.0	52.0	740.0					26 21
177	S X 158	I	礫石	II a	123.5	89.0	41.5	880.0					26 21
178	S M421	C 2	礫石	II a	99.0	84.0	55.0	640.0					26 21
179	S M423	C 2	礫石	II a	140.5	134.5	47.0	1310.0					26 21
180	S K 123 F 2	B 2	礫石	II a	140.0	129.0	44.0	1060.0		中野中葉	11	26	21
181	S K 356	H	礫石	II b	121.0	108.0	37.0	790.0		背面一箇欠損			27 21
182	S K 161	I	礫石	II b	138.0	96.0	49.0	900.0		後期	20	27	21
183	S M423	C 2	礫石	II b	107.0	93.0	37.0	540.0					27 21
184	S K 419	G 2	礫石	II c	79.0	67.0	33.0	280.0					27 21
185	S M421	C 2	礫石	II d	268.0	257.0	113.0	10800.0		裏面に転用			28 22
186	S K 419	G 2	礫石	II d	225.0	220.0	88.0	6260.0					28 22
187	S X 341	H	礫石	III a	163.0	57.0	75.0	1070.0					30 23
188	S X 167	I	礫石	III a	160.0	69.0	67.0	830.0					30 23
189	S X 167	I	礫石	III a	150.0	72.0	68.0	890.0					30 23
190	S M420	G 2	礫石	III a	123.0	49.0	74.0	610.0					30 23
191	S M423	C 2	礫石	III a	200.0	78.0	66.0	1550.0					30 23
192	S X 341	H	礫石	III b	168.0	78.0	60.0	870.0					30 23
193	S P 110	B 2	礫石	I a	100.0	96.0	38.0	470.0		裏面に磨面あり			31 23
194	S K 356	H	礫石	I a	104.0	96.0	48.0	620.0					31 23
195	A区	A	礫石	I a	103.0	76.0	43.0	440.0					31 23
196	S X 356	H	礫石	I a	108.0	90.0	55.0	770.0		やや風化			31 23
197	S K 51	A	礫石	I b	86.0	77.0	40.0	340.0					31 23
198	S K 181	H	礫石	I b	81.0	75.5	42.5	380.0					31 23
199	S K 123 F 2	B 2	礫石	I b	111.5	88.0	62.0	720.0		中野中葉	6	32	23
200	S X 167	I	礫石	I b	117.0	93.0	39.0	590.0					32 23
201	S M420	G 2	礫石	I b	102.0	78.0	48.0	570.0					32 23
202	S X 341	H	礫石	I b	107.0	93.0	53.0	690.0					32 23
203	S X 356	H	礫石	I b	77.5	82.0	50.0	450.0		裏面に磨面あり			32 23
204	S M420	G 2	礫石	I b	98.0	80.0	43.0	460.0		風化激しい			32 23
205	S M420	G 2	礫石	I b	110.0	100.0	50.0	740.0					33 23
206	S K 419	G 2	礫石	II b	161.0	93.0	45.0	870.0					33 24
207	S K 356	H	礫石	II b	152.0	66.0	35.0	520.0					33 24
208	S X 167	I	礫石	II b	159.0	73.0	32.0	540.0					33 24
209	S K 406	H	石鏃	I	123.0	181.0	63.0	1500.0					34 24
210	G 2区	G 2	石鏃	I	194.0	151.0	65.0	2060.0					34 24
211	S K 166	I	石鏃	II	246.0	187.0	53.5	3800.0			18	35	25
212	S M421	C 2	石鏃	II	257.0	206.0	66.0	5120.0					35 25
213	S K 161	I	石棒		291.0	72.0	50.0	1780.0		下部に戴打痕・後期	19	36	25
214	S X 158	I	石棒		156.0	71.0	71.0	1320.0					36 25
215	S K 281	B 3	石製装飾品		51.0	45.0	11.0	30.0		精英部材に転用			36 26
216	C 2区	C 2	円盤状石製品		55.5	54.0	19.5	70.0					36 26
217	S X 158	I	円盤状石製品		61.0	65.0	19.0	90.0					36 26
218	S X 414	J	礫石		155.0	78.0	22.0	600.0					37 26
219	S X 414	J	礫石		134.0	77.0	14.0	320.0					37 26
220	I区	I	礫石		54.0	42.0	18.5	80.0		上下欠損			37 26
221	S X 235	B 3	礫石		56.0	40.0	12.0	40.0		1面使用			37 26
222	S X 167	I	礫石		53.0	36.0	39.0	90.0		2面使用			37 26
223	S X 167	I	宝珠飾り		291.0	166.0	142.0	5940.0		3面使用			37 26
										精英部材に転用			37 26

※ 長さ、幅、厚さともに見かけの値である。

VI まとめ

今回の調査では、縄文時代から近現代までの遺構・遺物が検出された。遺構の大半は近現代のもので占められ、遺物も二次堆積の可能性が高い。これは、今回の調査区域が道路の拡張部分に設定されていることに起因すると考えられる。以下、縄文時代を中心に遺構・遺物についての調査成果をまとめる。

1 遺構について

今回の調査で検出された遺構は登録数にして463を数える。B、C、D、H、I区に集中して検出された。縄文時代の遺構はB、C、D区に集中しており、特にC区南側からD2区にかけて、良好に依存していた。その他の地区では近現代の遺構が大半を占めた。また中世の遺構としては堀跡1条と墓塚2基が検出された。小ピットが多数検出されたが建物を構築するには至らなかった。

2 遺物について

今回の調査で出土した遺物は、大半が二次堆積の可能性が高いとはいえ、これまで縄文時代後期前葉の遺跡の調査例が少ないことから、資料を提示し得たことにおいて意味を持つと考えられる。以下縄文土器について、県内の類例をあげ、若干の所見をのべてまとめとする。

第Ⅰ群土器は、早期中葉に位置付けられる一群である。県内の当該期の遺跡としては米沢市二ツ俣A(八幡原No5)遺跡、柿の木遺跡(八幡原No4)、法将寺遺跡、南陽市月ノ木B遺跡などがある。a類は法将寺遺跡A群Ⅳ類、月ノ木B遺跡第4群c3類に、b類は、刺突の手法が異なるが、法将寺A群Ⅵ類に、d類は法将寺A群Ⅴ類、月ノ木B遺跡第4群a1類に、e類は法将寺A群Ⅰ類に、f類は月ノ木B遺跡第4群b2類に類似例がある。a・b類は常世式に、d～f類は明神裏Ⅲ式に比定されよう。c類も凡そ同時期のものと推定されるが詳細は不明である。

第Ⅱ群土器は、前期初頭に位置付けられる一群である。小破片のみの出土で、詳細は不明であるが、近隣に一ノ坂遺跡が所在することから、関連性が注目される。

第Ⅲ群土器は前期後半に位置付けられる一群である。a類は大木4式期に属する。b類は大木5式期に位置付けたい。

第Ⅳ群土器は、中期中葉～後葉に位置付けられる一群である。大木8a～8b式期に属する。

第Ⅴ群土器は、中期末葉に位置付けられる一群である。a類は小破片のみの出土で詳細は不明である。大木10式に併行する。c類は、刺突の手法から三十稲場式とは区別される。中期末葉から後期初頭に位置付けたい。県内の出土例としては、遊佐町神矢田遺跡があるが量的には僅少である。d類は後期の可能性もある。

Ⅵ群土器は、後期前葉に位置付けられる。凡そ堀之内Ⅰ～Ⅱ式期に属する。県内で堀之内式期の土器の出土例は置賜地方では、米沢市竹井境B(八幡原No31)遺跡、柿の木(八幡原No4)遺

跡、高島町宮下遺跡、小国町蟹沢遺跡、村山地方では、山形市大清水遺跡、窪遺跡、最上地方では新庄市水上遺跡、村山市中村A遺跡、庄内地方では遊佐町神矢田遺跡等がある。a類は、堀之内Ⅱ式に併行する土器群で器種は異なるが、同様の橋状取手をもつものとして高島町宮下遺跡に出土例がある。b類は竹管による刺突の手法から後期に分類したが、詳細は不明である。c類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群で、小国町蟹沢遺跡、米沢市柿の木遺跡Ⅳ群、新庄市水上遺跡(第2次)11類等に類似例が見られる。d類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群で、米沢市竹井境B遺跡第2群a類、新庄市水上遺跡(第2次)11類、中村A遺跡第Ⅱ群3類等に類似例が見られる。e類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群で米沢市竹井境B遺跡第2群b類や遊佐町小山崎遺跡12群に類似例が見られる。f類・g類は堀之内Ⅰ式に併行する土器群であるが、出土量が僅少で詳細は不明である。e類に近似する印象をうける。h類は、堀之内Ⅱ式に併行土器群と考えられるが沈線の手法がやや華奢である。i類は堀之内Ⅱ式に併行する土器群で、管見によれば県内での他の報告例はない。j類・k類は堀之内Ⅱ式に併行する土器群でj類は米沢市竹井境B遺跡第2群d類あるいは第3群a類に近似し、k類は米沢市竹井境B遺跡第2群f類、遊佐町小山崎遺跡第14群に類似例が見られる。l類(100)は三十稲場式の蓋である。県内の三十稲場式土器の出土例は南陽市富沢Ⅰ遺跡、飯豊郡郡の神遺跡、町下遺跡、小国町蟹沢遺跡、遊佐町小山崎遺跡、八幡町藤台遺跡等が挙げられ、米沢市教育委員会の調査でも確認されている。近年、小国町千野遺跡でまとまった量が出土している(未報告)。m類は称名寺式に併行する土器群(101・102)や堀之内Ⅰ式あるいはⅡ式に併行する土器群である。米沢市竹井境B遺跡2群e類(103)やh類(104)に類似例が見られる。ただ庄内地方や最上地方の例は、本遺跡の例とは若干差異が見られ(例えばS字状沈線が見られず鎖状隆線や隆線上の刻み目の違い)、注意が必要である。推測の域を出ないが、本遺跡の出土例は南東北太平洋側の様相が強く(例えば、e類74など)、三十稲場式の出土量からもこれを補足すると考える。今後の調査成果に期待したい。

Ⅶ群土器は後期中葉に位置付けられる。凡そ加曾利BⅠ式期に属する。出土量も少なく、詳細は不明である。当該期の遺跡としては、米沢市左沢遺跡、天童市渡戸遺跡が挙げられる。

Ⅶ群土器の詳細は不明である。(117)は器形から判断して後期中葉に位置すると推定される。(120)は沈線の手法から後期の印象を受ける。地文のみのものについては時期は不明であるが、凡そ後期中葉から後期中葉の範囲の中に収まると推定される。

以上のことから、大樽遺跡は縄文時代後期中葉から後期中葉まで断続的に集落が営まれており、また中世においては城館の一部として機能していたと推定される。ちなみに周辺住民の聞き取りによると、現在の地割りは上杉入部以来ほとんど変更されていないとのことだったので、中世以降は継続して集落として機能していると推定し得る。またD区西側には遺跡が良好に遺存していると推定されるので、今後の調査に期待したい。最後に、関係公所はじめ調査参加者及び周辺住民に感謝の意を表して調査のまとめとする。

参考文献

- 青木昭博(1997):「序章 自然と風土 第一節 米沢の自然」『米沢市史』 第1巻 原始・古代・中世編 米沢市
- 阿子島功・西谷克彦・米地文夫(1985):「II 地形」『土地分類基本調査 米沢・関』
5万分の1国土調査 山形県
- 小国町教育委員会(1980):「蟹沢遺跡発掘調査報告書」小国町埋蔵文化財調査報告書第3集
小国町教育委員会
- 菊地政信(1992):「第6節 小野川c遺跡」『遺跡詳細分布調査報告書第5集』
米沢市埋蔵文化財調査報告書第32集 米沢市教育委員会
- 菊地政信(1998):「第4節 大樽遺跡」『遺跡詳細分布調査報告第11集』
米沢市埋蔵文化財調査報告書第61集 米沢市教育委員会
- 斎藤守(1994):「麻台遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第5集
(財)山形県埋蔵文化財センター
- 佐々木洋治(1971):「高島町史」別巻 考古資料編 高島町
- 佐藤鎮雄・佐藤雅宏(1972):「矢失田遺跡-第3次・4次・5次発掘調査報告と考察-」
山形県遺佐町教育委員会
- 佐藤鎮雄(1975):「第4章 従来の考古学的調査 第3節 No31(竹井境B)遺跡調査の概要」
『米沢市八幡原工業団地造成予定地内埋蔵文化財調査報告書』 第1集
米沢市教育委員会・地域振興整備公団
- 佐藤守・黒坂雅人(1996):「富沢I遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財センター調査報告書第30集
(財)山形県埋蔵文化財センター
- 佐藤正俊・渋谷孝雄(1981):「うぐいす沢遺跡第1次発掘調査報告書」
山形県埋蔵文化財調査報告書第41集 山形県教育委員会
- 渋谷孝雄・黒坂雅人・阿子島功(1989):「月ノ木B遺跡発掘調査報告書」
山形県埋蔵文化財調査報告書第135集 山形県教育委員会
- 渋谷孝雄(1997):「II部 小山崎遺跡発掘調査報告書(1)」『分布調査報告書(24)』
山形県埋蔵文化財調査報告書第198集 山形県教育委員会
- 月山隆弘(1995):「第3節 生蓮寺遺跡」『遺跡詳細分布調査報告書第7集』
米沢市埋蔵文化財調査報告書第42集 米沢市教育委員会
- 手塚孝・菊地政信(1982):「第5章 八幡原No4(柿の木)遺跡」『米沢市万世町桑山団地造成地内埋蔵文化財調査報告書』 第I集
米沢市埋蔵文化財調査報告書第6集 米沢市教育委員会
- 手塚孝他(1985):「法将寺遺跡」米沢市埋蔵文化財調査報告書第12集 米沢市教育委員会
- 手塚孝(1995):「館山城」『山形県中世城館遺跡調査報告書』 第1集(置賜地域) 山形県教育委員会
- 手塚孝・菊地政信(1998):「第一章 原始社会より古代社会へ 第二節 縄文時代の米沢」
『米沢市史』 第1巻 原始・古代・中世編 米沢市
- 長橋至・渋谷孝雄(1998):「大樽遺跡」『分布調査報告書(25)』 山形県埋蔵文化財調査報告書第199集
山形県教育委員会
- 名和達朗・阿部明彦(1981):「水上遺跡第2次発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第40集
山形県教育委員会
- 名和達朗・渋谷孝雄(1983):「中村A遺跡発掘調査報告書」山形県埋蔵文化財調査報告書第73集
山形県教育委員会
- 秦昭繁(1997):「第一章 原始社会より古代社会へ 第一節 米沢のあけぼの」
『米沢市史』 第1巻 原始・古代・中世編 米沢市
- 馬目順一(1968):「第3編B:綱取貝塚第4地点発見の堀之内I式期土器の考察」『小名浜』
福島県いわき市教育委員会營城出張所
- 馬目順一(1982):「南東北」『シンポジウム堀之内式土器資料集』 市川考古博物館
- 山内清男(1967):「日本先史土器図譜」(復刻) 先史考古学会
- 山内清男(1979):「日本先史土器の縄紋」先史考古学会
- 米沢市教育委員会(1997):「大樽遺跡発掘調査現地説明会資料」
米沢市教育委員会(1998):「米沢市遺跡地名表」

報告書抄録

ふりがな	おおたるいせきはつくつちようさほうこくしょ							
書名	大樽遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第67集							
編著者名	黒坂雅人 國井修							
編集機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号 TEL023-672-5301							
発行年月日	1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おおたるいせき 大樽遺跡	やまがたけん 山形県 よねづかし 米沢市 なごやま 館山 よんぢようの 四丁目	6202	1207	37度 54分 37秒	140度 4分 23秒	19980907 ～ 19981113	1,500	一般県道 綱木西米 沢停車場 線道路改 良工事
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項		
集落跡	縄文時代 (早期～ 後期)	土坑	縄文土器(早期中葉～後期中葉) 石甕・石匙・尖頭器・スクレイパー 磨製石斧・石皿・磨石・凹石・石棒			遺物は2次堆積の可能性が高い。県内では比較的資料の少ない後期初頭から前葉の遺物が出土している。		
集落跡・ 城館跡	中世	堀 1 墓塚 2				堀跡全体の構造は不明。 (総出土箱数：93)		

圖 版



調査区全景(南から)



H区精査風景(東から)



A区完掘状況(南から)



B 1区完掘状況(西から)



B 2区完掘状況(南から)



B 3区完掘状況(北から)



C 1区完掘状況(北から)



C 2区完掘状況(北から)

図版 2



D 1 区完掘状況(南から)



D 2 区完掘状況(西から)



G 1 区完掘状況(南から)



G 2 区完掘状況(南から)



G 3 区完掘状況(南から)



H 区完掘状況(南から)



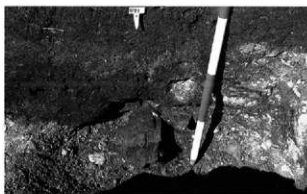
I 区精査状況(北東から)



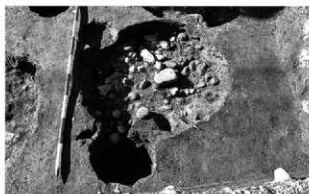
J 区完掘状況(北から)



S K 418完掘状況(南東から)



R P 21 (39)出土状況(東から)



S K 299完掘状況(東から)



S K 439半截状況(西から)



S K 276完掘状況(東から)



S K 437半截状況(西から)



S K 144完掘状況(西から)



S P 338遺物(111)出土状況(南から)



S K 123完掘状況(南から)



S K 123土層断面(東から)



R P 10(42)出土状況(東から)



R P 14(51)出土状況(東から)



S K 166半截状況(南西から)



S K 161半截状況(北から)



S K 320完掘状況(北東から)



S K 181精査状況(北から)



S X 303精査状況(西から)



S K 149・S X 151完掘状況(北東から)



E U 261半截状況(南から)



R P 22(116)出土状況(東から)



S D 417完掘状況(南から)



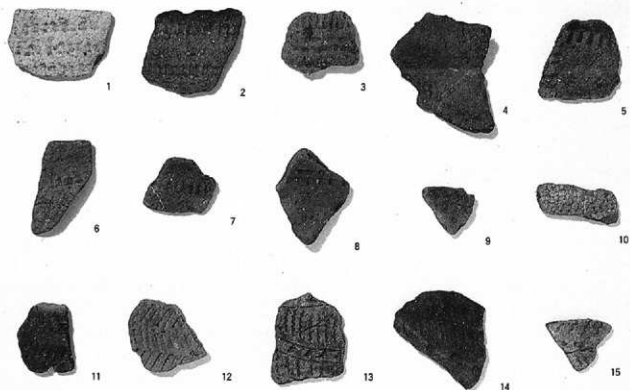
S E 15精査状況(北西から)



S K 51半截状況(東から)



S K 16半截状況(南東から)



1~15(1/2)



16~29(1/2)



30



31



32



33



34



35



36



37



38

30~38(1/2)



44



45



46



47



48



49



50



53



52



54

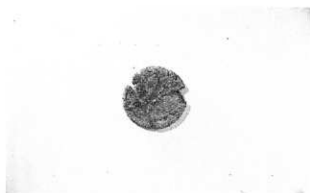
44~50・52~54(1/3)



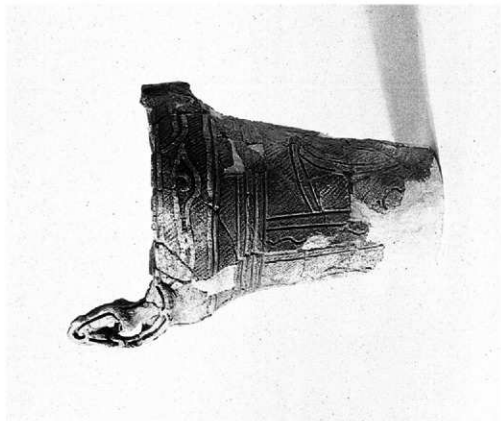
39(約 1/3)



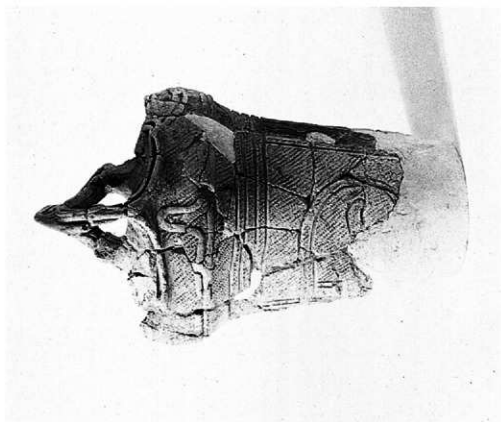
40・41(1/3)



56(1/3)



42(約 1/3)



42(約 1/3)



43(1/4)



51(約2/3)



55(1/2)



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68

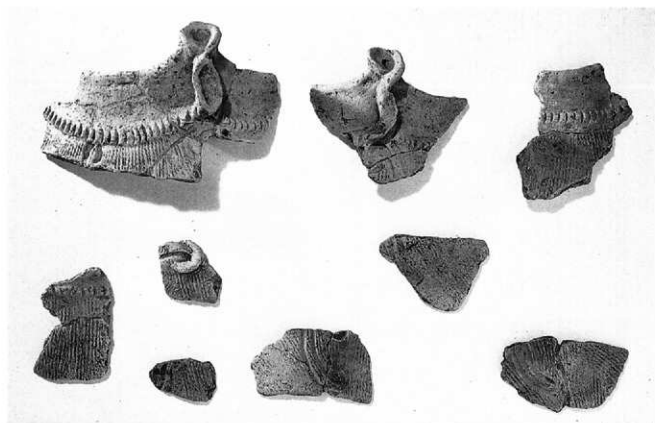


69

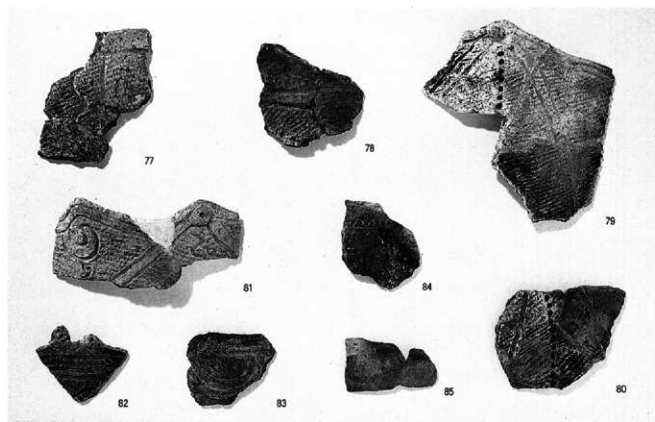


70

57~70(1/3)



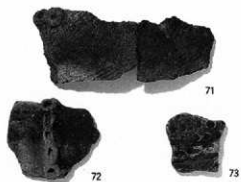
74(1/3)



77~85(1/3)



86~97(1/2)



71~73(1/3)



75・76(1/3)



98(1/3)

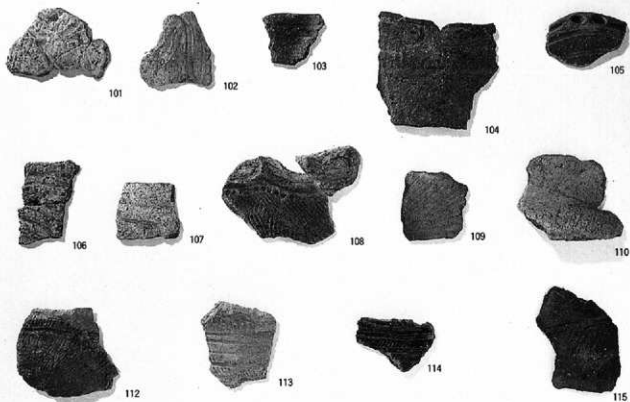


99



100

99・100(1/3)



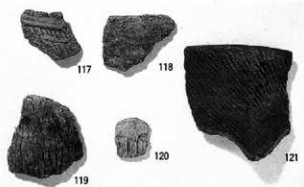
101~110・112~115(1/3)



111(約1/4)



116(約1/4)



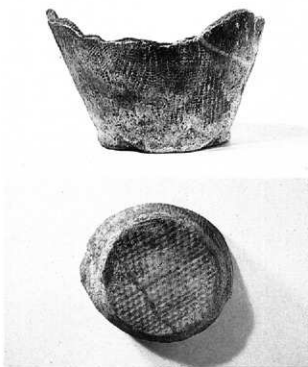
117~121(1/4)



122(約1/4)



123(約1/3)



124(約1/4)



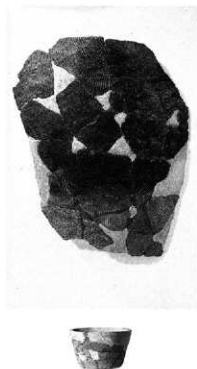
127(約1/4)



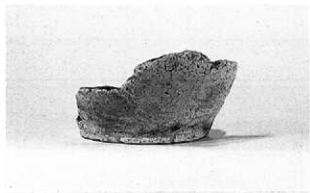
129(1/4)



125(約1/4)



131(約1/6)



126(約1/6)



128(約1/6)



130(約1/6)



132(約1/6)



133(約1/4)



134(1/3)



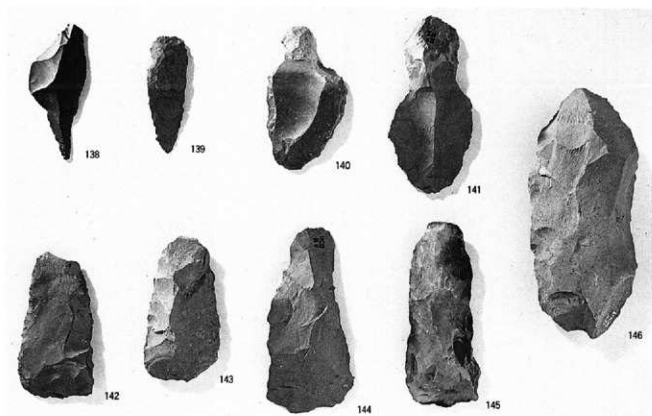
136(1/2)



135(1/3)

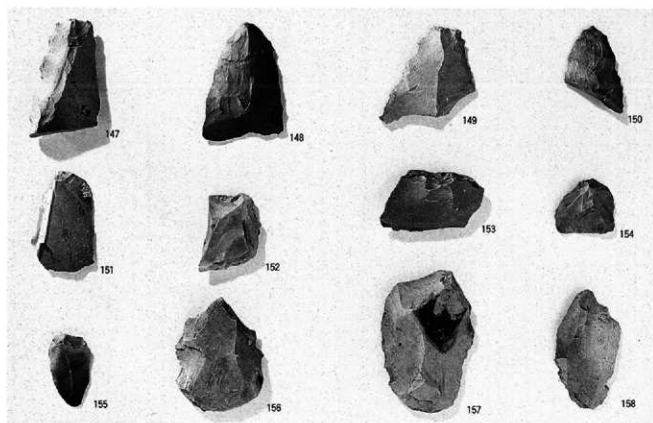


ウラ(1/3)

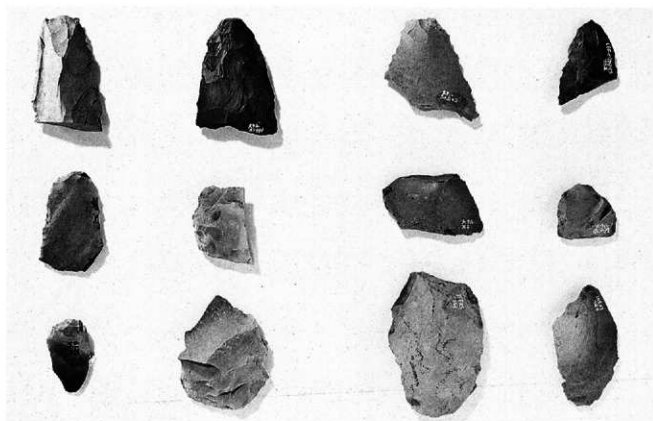


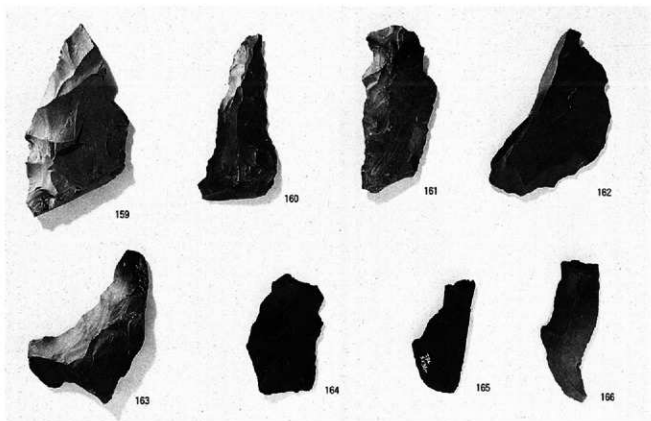
138~146(1/2)



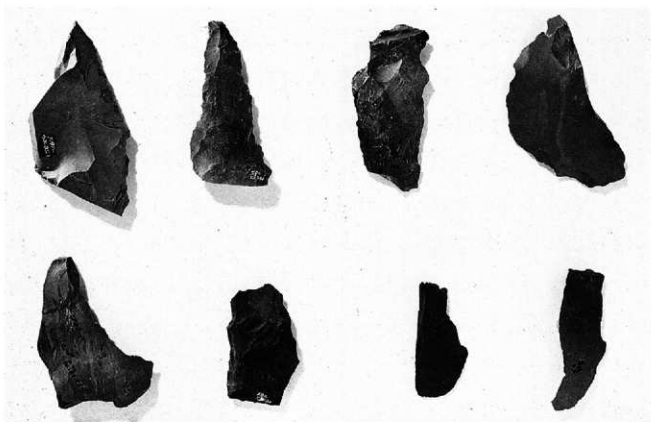


147~158(1/2)



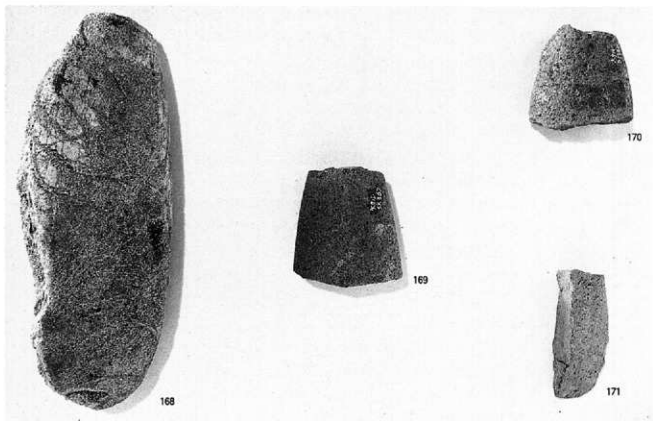


159~166(1/2)

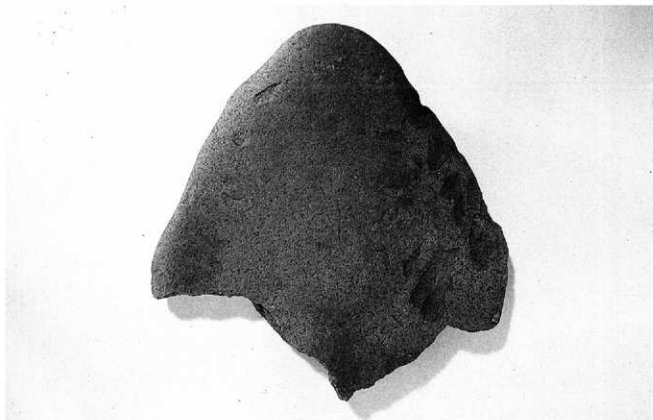




167(原寸)



168~171(1/2)



175(1/4)





172



173



174



176



177



178



179



180

172~174 · 176~180(1/4)



181



182

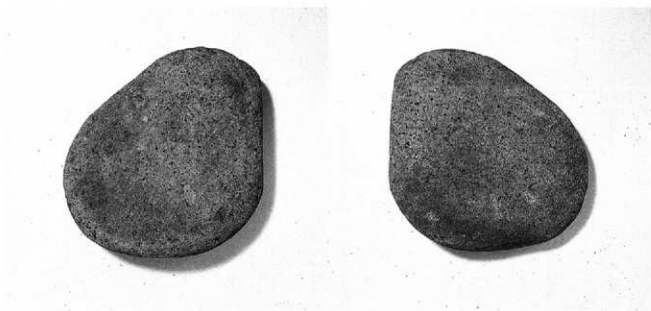


183

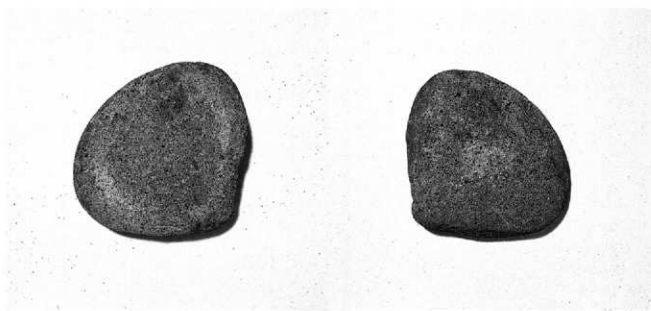


184

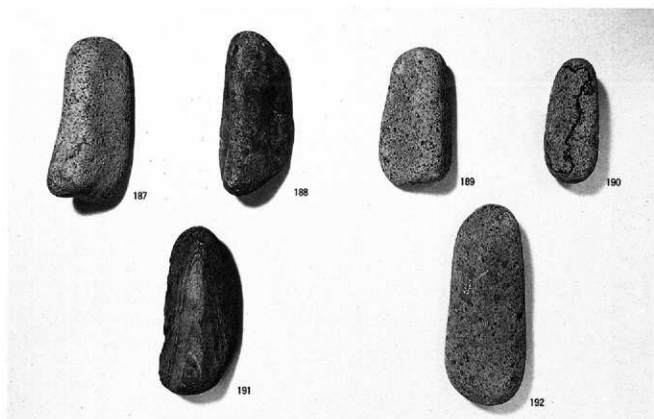
181~184(1/4)



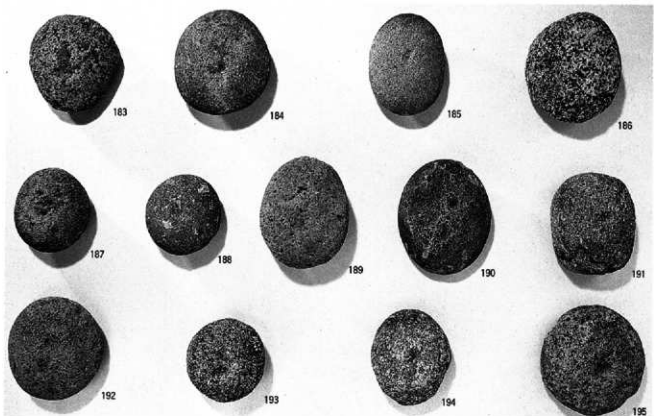
185(1/4)



186(1/4)



187~192(1/4)



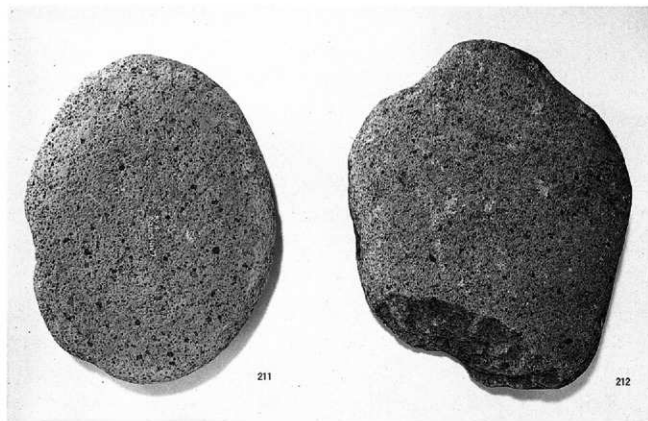
193~205(1/4)



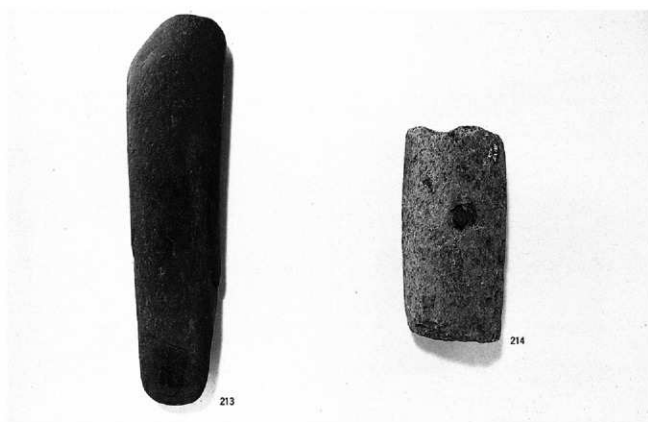
206~208(1/3)



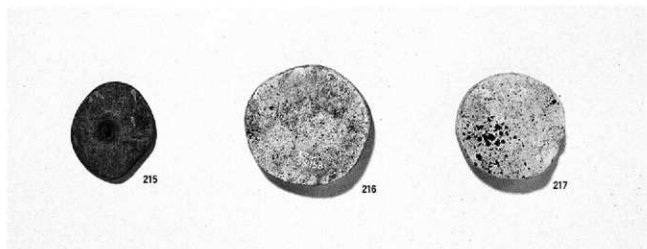
209・210(1/3)



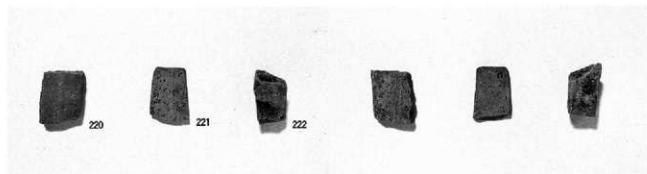
211・212(1/3)



213・214(1/3)



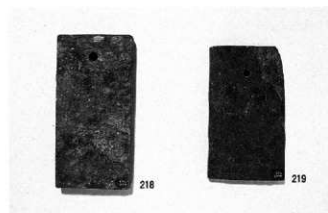
215~217(1/2)



220~222(1/4)



137(約 1/2)



218・219(1/4)



223(1/6)

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第67集

おきたる
大樽遺跡発掘調査報告書

1999年3月31日発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター
〒999-3161 山形県上市市弁天二丁目15番1号
電話 023-672-5301
印刷 山形印刷株式会社
